

令和4年度指定（地域社会学科）

新時代に対応した高等学校改革推進事業（普通科改革支援事業）

令和6年度研究開発実施報告書（第3年次）



島根県立隠岐島前高等学校

目次

1 構想概要

新時代に対応した高等学校改革推進事業（普通科改革支援事業）構想調書	3
-----------------------------------	---

2 研究開発実施報告

令和6年度 研究開発実施計画書（抜粋）	12
令和6年度 研究開発計画および実施報告	15
研究開発計画1：地域共創科（学校設定科目：地域未来共創）の改良	
研究開発計画2：グローバル未来共創のカリキュラム開発	
研究開発計画3：成果目標、活動指標の検証	
研究開発計画4：振り返りと改善	
研究開発に係る評価	
運営指導（共創）委員会記録	

3 資料

(1) 構想概念図	44
(2) 目標設定	45
(3) 普通科改革支援事業ロジックモデル	46
(4) 事業評価資料高校魅力化評価システム（7月実施）結果	47
(5) プロジェクトテーマ一覧	51
(6) 教育課程表	52

1 構想概要



地域との協働による高等学校教育改革推進事業構想調書

1 研究開発構想名

離島発 「グローバル人材」を育成するための「教科・探究学習が有機的に融合したカリキュラム」の開発

2 研究開発の目的・目標

(1) 目的

i) 目的①：「教科・探究学習が有機的に融合したカリキュラム」の開発

本構想の第一の目的は、グローバル人材の育成につながる「教科学習・探究学習が有機的に融合したカリキュラム」の開発である。この開発を通して、グローバル人材に必要な4つの資質・能力である「主体的行動力・多文化協働力・探究的学習力・社会的自立力」を身につけていく。

これまでは「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」等により、探究学習と教科学習とをつなぎ、「総合的な探究の時間」の中で、各教科の観点から地域課題を探究する授業や、各教科(科目)同士でのコラボレーション授業の実践、教科を地域と関連づけて行う授業実践やシラバス改訂などを行うなど、教科(科目)横断的に教育内容を再構築するための研究開発を進めてきた。しかし、本校が目指す資質・能力が十分に育成されているとは言い難く、さらなる強化・改善の余地があった。そこで令和5年度は校内に「授業共創プロジェクト」を立ち上げ、より組織的に研究開発を推進できる体制を整えた。これにより、これまでの研究成果を存分に活かしながら、その学習スタイルをさらに発展させ、教科学習と探究学習とが有機的に融合していくカリキュラムの開発を目指し、4つの資質・能力のさらなる習得を目指した。

令和6年度は「授業共創プロジェクト」の内容を継承しつつ、「教科の学びで習得した知識・技能や視点を地域探究の実践に活かす探究性重視の普通科」と「圧倒的な地域実践を基に、必要な学びを接続・深化する地域共創科」と、学びの特性を色分けして、指導の個別化と学びの個性化を図った。

主体性	自己肯定感・有用感	自分にはよいところがある。自分自身に満足している。
	課題設定力	現状を分析し、目的や課題を明らかにすることができる。
	行動力	自分で計画を立てて活動することができる。
	粘り強さ	うまくいかないことにも忍耐強く取り組むことができる。
協働性	受容力	自分とは異なる意見や価値を尊重することができる。
	対話力	相手の意見を丁寧に聞くことができる。
	表現力	友達の前で自分の意見を発表することができる。
探究性	共創力	共同作業において、自分の力が発揮できる。
	学びの意欲	自分から勉強することができる。
	情報活用能力	情報を理解し、勉強したことを活用することができる。
	批判的思考力	問題を順序だてて考えることができる。
社会性	省察力	自分を客観的に理解することができる。
	地域貢献意識	地域の役に立ちたいと考えている。
	社会参画意識	地域や社会での問題やできごとに関心がある。
	グローバル意識	地域の課題と世界の課題を関連づけることができる。
	持続可能意識	地域文化や暮らしを、自分の手で未来に伝えたいと考えている。

本校で定める4つの資質・能力

ii) 目的②：より共創的な運営体制

第二の目的は、チーム学校・地域を超えた「地域社会に開かれたチーム」によって本構想の実現に挑むことである。本校の生徒や教職員、授業や高校魅力化コンソーシアムなどに関わる地域の関係者だけでなく、本事業の運営指導委員をはじめ、様々な形で本校に関わる地域内外の応援者たちと手を取り、本構想を共に創っていくことで、様々な叢智を結集して必要な人的・物的リソースを効果的に組み合わせながら活用できる体制を構築する。

iii) 目的達成を通して目指したいこと

上記の目的を果たすことで、結果として全国に先駆けて本事業に挑む本校が、今後、とくに人口減少の著しい離島・中山間地域での普通科改革に挑む地域・学校のロールモデルとなり、その過程で得られた経験や知見も含めて、広く社会に公開したい。ひいては全国的に地域に思い入れや熱量のある若者を輩出することに貢献し、都市部から地方部への人材還流まで視野に入れて構想の実現を目指したい。

(2) 達成目標

i) アウトプット

グローバル人材に必要な力は「主体性」、「協働性」、「探究性」、「社会性」の4つの資質・能力である。

卒業までに4つの資質・能力にどのような変化があるか、生徒の「自己能力認識」および「行動実績」を定量的に調査する。具体的には、80項目のアンケート調査を実施し、「主体性」、「協働性」、「探究性」、「社会性」の「自己能力認識」で肯定的意見が78%以上となるよう、「行動実績」では肯定的意見が80%以上となるよう数値目標を設定する。

また、生徒が育つ環境を「安心・安全の土壌」、「多様性の土壌」、「対話の土壌」、「開かれた土壌」と定義し、生徒および大人(コンソーシアム構成員および本校教職員)にアンケート調査を実施する。具体的には、各土壌における生徒の肯定的意見、大人の肯定的意見ともに90%以上となるよう数値目標を設定する。

以上を踏まえ、アウトプットには、「a.主体性、協働性、探究性、社会性における自己能力認識で肯定的意見が78%以上」、「b.主体性、協働性、探究性、社会性における「行動実績」で肯定的意見が80%以上」、「c.安心・安全の土壌、多様性の土壌、対話の土壌、開かれた土壌における生徒の肯定的意見が90%以上」を設定し、上記調査結果を基に、カリキュラムの研究開発や授業改善に活用する。

ii) アウトカム

グローバル人材の育成に向けて、「教科学習と探究学習とが有機的に融合したカリキュラム」を通して、生徒の学びの個性化と教職員の指導の個別化を、普通科・地域共創科の両面から推進することで、よりグローバルな進路選択が全体の20%以上まで広がるよう、進路選択についての数値目標を設定する。とくに卒業後の生徒の自己実現のために本校での学びを活かし、グローバルなビジョンを描き、マイテーマをよりグローバルやローカルな観点から深めていくことを望む生徒が増えることを目指す。

また、卒業後も隠岐島前地域や日本全国で開催される共創に関わるワークショップやプログラムに参加するなど、積極的に島前地域に関わろうとする生徒数が20名以上になるよう、数値目標を設定する。

以上を踏まえ、アウトカムには、「a.卒業後のグローバルな進路選択者(スーパーグローバルユニバーシティや

海外への進学、地域協働系学部への進学の割合が20%以上」、^b卒業後も隠岐島前地域に積極的に関わろうとする生徒数(関係人口・還流人口数)が20名以上」を設定する。

3 研究開発の背景

(1) 本校を取り巻く状況

離島に位置する本校および隠岐島前地域の育てたい人材像は、これまで様々な事業でも掲げてきたとおり「グローバル人材」である。グローバル人材は「地球的視野で直面する事象や課題を俯瞰し、考えながら、解決に向けて足元から実践していける人材」であり、同時に「ふるさとや地域を想いながら、実践家として活躍できる人材」と定義し、地域からも世界からも「求められる人材・愛される人材」を育成することが本校の使命であると考えている。世界に先駆けて「課題先進地」となった隠岐島前地域が現実的に抱える地域課題の解決や課題を逆手に取った価値の創造に挑み、地域の課題や価値と地球規模の課題や価値とを「結びつけて」思考し、世界のどこにいても実践者として活躍できる人材となることが地域社会にとっても、これから生きる生徒にとっても重要である。

(2) 「地域共創科」を設置する必要性

本構想では、地域共創科を設置することで、これまでよりもさらにグローバルなフィールドで学ぶ機会や環境を整備し、より地域・社会に開かれた形でのグローバル人材の育成を目指す。

そのためには、グローバルなフィールドでの地域課題解決型・価値創造型の探究学習が不可欠である。これまでも、グローバルなフィールドでの地域課題解決型・価値創造型の探究学習を通して、「気づく/考える/話し合う/実践する・巻き込む/振り返る」という本校独自の学習と行動の学びのサイクルを回すことで、主体的行動力・多文化協働力・探究的学習力・社会的自立力を身につけることができるようカリキュラムを設計してきた。これらの力を着実に身につけるためには、より深くグローバルに根ざし、サイクルを何度も何度も回しながら学びを深めていくことが必要になる。ところが、



現行のカリキュラムでは時間的な制約から、生徒にとっても教職員にとってもサイクルが一度しか回せないなど、挑戦が中途半端になってしまうことが課題であった。そこで本事業では、従来の普通科とは別に新たに地域共創科を設置することでより積極的に特色化・魅力化を図り、6校時連続で丸一日地域に飛び出したり、リフレクションの技術を学ぶことで新たな学びにつなげたりすることのできる「地域共創 DAY」を設置することでその課題を解決する。これに伴い、本校独自の学びのサイクルを、「気づく/考える/話し合う/実践する・巻き込む/成功する・失敗する/振り返る」という行動と内省のサイクルにアップデートし、失敗を恐れずにさらなる「挑戦」を促していく仕組みと、その挑戦を深い学びにつなげるための「振り返り」を教職員・生徒共に学校全体で推進していく。

四年制大学から就職まで、多様な進路を希望する本校の生徒に対し、共通したカリキュラムの中で指導の個別化を図ることについては課題を抱えていた。2年次から学科が分かれることで、「教科の学びで習得した知識・技能や視点を地域探究の実践に活かす探究性重視の普通科」と「圧倒的な地域実践を基礎に、必要な

教科の学びを接続・深化する共創科」とに学びの特性を色分けし、指導の個別化と学びの個性化を図る。また、両学科とも教科学習と探究学習との有機的なつながりを目指したカリキュラムを開発することで生徒の進路実現を目指す。

4 実施計画

(1) 令和4年度（指定初年度）

① 新学科カリキュラム準備委員会の設置

令和5年度からの本格的なカリキュラム始動に向けて、新学科カリキュラム準備委員会を設置し、カリキュラムの確定と運営体制の確立を令和4年度末までに行う。また、地域内外の協力体制を整える役割も担う。

② 学校経営目標推進委員会の設置

学校全体として、本構想の実現や行動と内省の学びのサイクルを推進していけるよう、「失敗を共に称え合う学校」をスローガンに掲げ、生徒および教職員が失敗を恐れずに挑戦できる風土や仕組みを構築し、同時に、運営指導委員の熊平委員の協力を得ながら、リフレクション(振り返り)を日常のあらゆる場面で行えるように促進する。

③ 普通科・地域共創科に向かうための新しい「総合的な探究の時間」の実施

学科選択によって、普通科と地域共創科とに分かれる前段階である、1年次の「総合的な探究の時間」のカリキュラムを見直し、各教科との有機的な融合を図ることはもちろんのこと、学校行事やHR活動とも連動した教育活動を推進する。

④ 探究学習の「評価」研究

運営指導委員の喜多下委員の協力を得ながら、探究学習の「評価」について研究し、効果検証を行う。

⑤ 成果目標、活動指標の検証

これらについて関係機関との協議も踏まえ、成果目標、活動指標の検証を行う。

(2) 令和5年度（指定2年度）

① 地域共創科（地域未来共創）の始動

令和4年度に新学科設置委員会を中心につくったカリキュラムと運営体制をもとに始動する。また、新学科設置委員会は、地域共創科担当チームとして改編し、地域共創科の運営とそれに伴い発生する問題点の改善等を推進する。

② グローカル未来共創のカリキュラム開発

地域未来共創を稼働させながら、そこで発生した問題点なども踏まえて、令和4年度に確定させたカリキュラムを修正・調整していく。

③ 成果目標、活動指標の検証

これらについて関係機関との協議も踏まえ、成果目標、活動指標の検証を行う。

(3) 令和6年度（指定完成年度・本年度）

① 地域共創科（グローバル未来共創）始動

令和5年度に確定したカリキュラムを稼働させ、PDCAサイクルを回す。

② 成果目標、活動指標の検証

これらについて関係機関との協議も踏まえ、成果目標、活動指標の検証を行う。

5 研究開発の実施体制

(1) 管理機関の実施体制

県教育庁内に組織横断型の会議体およびチームを組成

- ・ 組織横断の枠組みにより、事業全体及び各校の取組状況を組織全体で共有する。
- ・ 直面している課題等に対して、組織全体で対応していくことを可能とする。

① 県立高校魅力化ビジョン推進本部

- ・ 教育庁の部長級をトップとして関係所属の長で構成する組織。
- ・ 月1回程度開催し、事業全体や各校の取組状況を確認する役割を担う。

② 庁内横断チーム（仮称：地域協働チーム）の組成

- ・ 地域との協働による教育の特色化・魅力化等に関わる所属で組織。
- ・ 学科等を所管する管理部門(学校企画課)に加えて、地域との協働体制やカリキュラム等を所管する指導部門(教育指導課)を中心として構成。
- ・ このチームで各校に対する実務的な伴走を行うことで、顔の見える関係を構築するとともに、各校が直面する課題に対して、組織の枠を越えて、迅速な対応や支援を行う役割を担う。

(2) 運営指導委員会の構成と位置付け

i) 運営指導（共創）委員会

運営指導（共創）委員会は、下記のメンバーで構成する。

所属	氏名	主な実績
学校法人早稲田大学 教育・総合科学学術院	藤井 千春 (運営指導委員長)	本校での「スーパーグローバルハイスクール事業」および「地域との協働による高校教育改革推進事業」における運営指導委員長
一般社団法人 21 世紀学び研究所	熊平 美香	『リフレクション 自分とチームの成長を加速させる内省の技術』著者
三菱 UFJ リサーチ & コンサルティング株式会社	喜多下 悠貴	島根県全体で導入している「高校魅力化評価システム」開発者
国立大学法人島根大学 教育学研究科	松尾 奈美	研究テーマ「探究学習を教科学力につなげる深い学びの実現」
海士町立海士中学校	道川 一史	第4回 NITS 大賞優秀賞「学びがつくる三方よし ～社会に開かれた総合的な学習の時間～」

ii) 運営指導（共創）委員会の位置付け

本構想における運営指導委員会は、単に指導・助言をいただく委員会に留まらず、本構想を、それぞれの委員の専門性を活かし、様々な観点から考察し深めていくために、共に創る「運営『共創』委員会」と位置付ける。道川委員とは、本構想における地域にとっての価値やインパクト、小中学校との協働のあり方を共に考え、喜多下委員とは、探究学習の「評価」の仕組みを共に創る。また、熊平委員とは、行動を学びにしていけるための「リフ

レクシオン(振り返り)』について共に開発し、藤井委員と総合的に考察していく。また、本構想の実践や成果を松尾委員に論文の形でまとめていただくことを想定している。

(3) コンソーシアムの体制

コンソーシアムは、既に設置済みである「島根県立隠岐島前高等学校の魅力化と永遠の発展の会」と「島根県立隠岐島前高等学校魅力化推進協議会」をベースに再構築し、地域との連携・協働をはじめ、様々なステークホルダーとの協働を推進する。また、本構想における「教科・探究学習が有機的に融合したカリキュラム」を深化・発展させることを念頭に人選を行う。あわせてコンソーシアムには、本校管理職、学校経営補佐官、主幹教諭、コーディネーターが会員や事務局として入る。

コンソーシアムでは、年度始めに当該年度の目標設定を共有し、年に6回程度の会議を設け進捗状況を報告する。年度末には、目標の結果や評価について共有し、次年度以降の指導・助言を受ける機会を設ける。

機関名	機関の代表者名
島根県教育委員会	教育監 木原 和典
島根県立隠岐島前高等学校	校長 登城 智宏
一般財団法人 島前ふるさと魅力化財団	常務理事 大野 佳祐
隠岐国学習センター	センター長 竹内 俊博
一般財団法人 地域・魅力化プラットフォーム	理事・会長 水谷 智之
海士町	町長 大江 和彦
海士町教育委員会	教育長 井筒 秀明
西ノ島町	町長 坂榮 一秀
西ノ島町教育委員会	教育長 澤 純子
知夫村	村長 平木 伴佳
知夫村教育委員会	教育長 渡部 真也

(4) コーディネーターの配置と役割

i) コーディネーターの配置

コーディネーターには、以下の2名を配置する。

所属	氏名
一般財団法人島前ふるさと魅力化財団	大野 佳祐(おおの けいすけ)
一般財団法人島前ふるさと魅力化財団	BERZENY GISELE(バズニー ジゼル)

ii) コーディネーターの役割

①地域・学校コーディネーター 1名(大野佳祐)

地域・学校コーディネーターには、月に10日程度の勤務で、校内におけるコーディネート機能と地域におけるコーディネート機能の両面を期待する。とくに校内におけるコーディネート機能の面では、カリキュラムや授業における地域連携の企画運営、年間指導計画の策定支援を中心に関わる。また、本構想を、学校全体として推進していけるよう、学校管理職と共に学校経営会議や学校経営目標推進委員会のメンバーとしても関わる。地域におけるコーディネート機能では、生徒の海外留学等の支援・調整や卒業生と在校生、卒業生と産業をつなぐ機会の設計・運営を中心に関わる。大きくは、このように設計・運営面での仕組みの構築や推進体制づくりの

ところに関わることで、結果として本構想の目的および目標の達成に貢献することを期待する。

②グローバル・コーディネーター 1名（バーズニー ジゼル）

グローバル・コーディネーターには、月に10日程度の勤務で、主にグローバルとの接続やグローバルでの活動のサポートを担うことを期待する。とくに海外での探究活動を推進する際のコーディネート機能を担うことで、教職員の負担を軽減する役割を担う。また、日常的な探究学習の場でも海外での事例紹介や外国人目線での指摘など、日本人だけでは実現できないグローバルな多様性を担保する上での役割と期待は大きい。

（５）事業終了後の取組計画

本構想は、これまで本校が実施してきた体制に基づいて企画しているため、指定終了後も事業継続は十分に可能である。

事業内容については、本構想に基づいて開発・研究を進めながらPDCAサイクルを回し、次年度以降につなげていく。また、運営指導委員には、仮に本事業が終了しても「運営共創委員」として関わり続けてもらい、自走できるまでの仕組みを整えていく。さらに、指定期間の中で「学び共創フォーラム（仮）」を積極的に実施しながら、知見を深めていく機会をつくることで、教職員が自走できる力をつけていく。

（６）国の指定終了後の事業経費計画

必要となる経費については県費の他、引き続き地元三町村と連携して、ガバメント・クラウドファンディングやふるさと納税を活用するかたちで調達できるよう指定期間内に関係機関と調整を行っていく。また、本校と連携・協働している一般財団法人島前ふるさと魅力化財団では、本校の取り組みを応援する層からの資金援助や本校の実践を活かした学びのプログラム（研修旅行の受け入れや講演・研修等）の提供を進めていながら資金調達できるようにしていく。

（７）学校の実施体制

i) 学校経営会議による学校経営としての推進・体制づくり

本構想は、学校経営目標の中に明確に位置づけ、学校全体として全教職員で推進する。本校の管理職・学校経営補佐官・主幹教諭・コーディネーターで構成されている学校経営会議の中で、本構想を含めた地域共創科についての進捗確認を行い、学校経営の観点から本構想推進における様々な事項の判断や体制づくりを支援する。また、年度末には、学校経営目標における振り返りを行い、その振り返りを基に翌年度の目標を立て、それが達成できる体制を構築する。

ii) 推進委員会の設置

本構想を含めた、学校経営目標を推進するための「推進委員会」を設置する。推進委員会は主幹教諭をリーダーとして、教職員の有志とコーディネーターとで委員を構成する。推進委員会では、学校経営目標を戦略的かつ具体的目標に落とし込み、目標達成に向けてPDCAサイクルを回しながら実行する。適宜、全教職員に開いて意見を募るタイミングをつくるなど、推進委員だけで閉じないよう注意する。

iii) 運営委員会や教科主任会での進捗確認や連携

管理職や学年主任、分掌の主任が集まる運営委員会の中でも、学校経営目標の進捗確認や本構想についての意見聴取を実施する。また、構想推進について、運営委員を基点に各学年部や各分掌とも連携しな

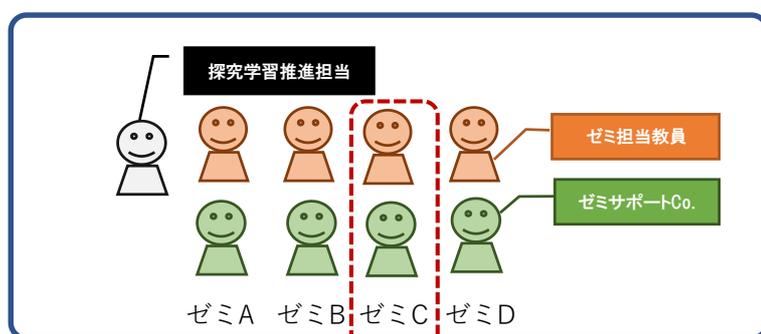
がら推進する。

教科主任会では、本構想における第一の目的にも掲げた「グローバル人材の育成につながる教科・探究学習が有機的に融合したカリキュラム」の開発について、特に教科の観点から、探究学習とどのように有機的に接続し、融合していくのかを考察し、実行する。

iv) 学年部+コーディネーターによる学年単位での推進

本校では、現在も「総合的な探究の時間」を各学年部で推進している。学校経営推進委員会での施策や教科主任会で練られた「教科・探究学習が有機的に融合したカリキュラム」を踏まえながら、学年部と校内コーディネーターとが連携・協働し、本構想を推進していく。

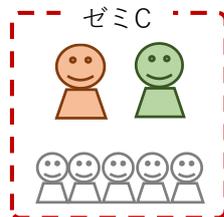
共創DAY運営会(定期)



主な機能

- 全体活動計画策定
- 全体活動進捗状況確認・調整
- 全体活動進捗状況の教職員への周知
- 全体活動予算管理
- 全体評価計画(生徒の活動成果に関する評価)
- 全体評価計画・実施・改善(事業に関する評価)

ゼミ会(非定期)



主な機能

- 全体活動計画周知
- ゼミ内活動計画策定
- ゼミ内活動進捗状況確認・調整
- ゼミ内活動安全管理
- ゼミ内活動予算管理
- ゼミ内指導及び形成的評価

学年部+コーディネーターによる「地域未来共創」運営体制

(8) 生徒・保護者・地域等への説明

地域の島内中学生・保護者に向けては、学校説明会やオープンスクールの中で、地域共創科について情報提供し、とくに普通科との違いや想定される進路などを踏まえた説明を実施した。同時に、三町村の教育委員会や小中学校等の教育機関に対しては、これまで行ってきた生徒同士の交流だけでなく、教職員同士の連携・交流の深化を測り、地域共創科についての理解や設置背景、目的や目標について理解を深める機会をつくった。

島留学生となる島外の中学生・保護者に向けては、学校独自に開催するオンライン説明会やオープンスクールの中で地域共創科について情報提供し、具体的にどのようにカリキュラムが進行するのか等について説明する機会を設けた。

第2学年時に学科選択をする第1学戦生徒・保護者に対しては、学科選択説明会を複数回実施し、生将来のキャリアイメージと紐付けながら教職員等が面談等のサポートをし、適切に学科選択できるよう支援した。

また、地域共創科での日々の実践を地域内外の情報媒体や学校ホームページ等にて適宜情報発信し、将来的には高校卒業後の進路や社会での活躍にも触れながらより広く情報発信していく。



地域共創科の取り組みを紹介する学校ホームページ

隠岐島前高校 地域共創科 はじまりました！

今年度から新しい教育課程の**地域共創科**が本格的にはじまりました。地域共創科では、『**仲間と共に、大人と共に、地域と共に意志ある未来を創る**』をスローガンに、地域の課題と向き合いながら、生徒が地域と深く関わり、より高いレベルでの島前地域への貢献を目指します。

毎週木曜日を『地域共創DAY』として、生徒が1日地域へ出かけ、地域の方と一緒に活動する時間があります。地域の皆様にはご理解・ご協力・ご支援くださいますようお願い致します。

隠岐島前高等学校 (代) 08514-2 - 0731



耕作放棄地で活動する生徒

地域内広告での告知

令和6年度研究開発計画および実施報告



令和6年度 研究開発実施計画書（抜粋）

1 研究開発名

離島発「グローバル人材」を育成するための「地域・社会に開かれたカリキュラム・マネジメント」の探究

2 令和6年度の研究開発実施計画

（1）地域共創科（学校設定科目：地域未来共創）の改良

前年度に構築した、新学科カリキュラム準備委員会を地域共創科担当チームとして再構成し、地域共創科の運営と、それに伴い発生する課題を改善するなどPDCA サイクルを回す役割を担う。

（2）地域共創科（学校設定科目：グローバル未来共創）の稼働

地域共創科（グローバル未来共創）を稼働させながら、そこで発生した課題なども踏まえて、令和4年度に確定させたカリキュラムを適宜修正・調整する。

（3）成果目標、活動指標の検証

（1）・（2）の取り組みについて、関係機関との協議も踏まえ、成果目標、活動指標の検証を行う。

（4）振り返りと改善

（3）の検証結果も踏まえ、年間の振り返りを行い、次年度につなげていく。

令和6年度の事業計画

	事業の内容	
	カリキュラムや教育方法等の開発	関係機関等との連携・協力体制の構築
4月	<ul style="list-style-type: none"> ・校内会議（毎週） ・校内新任教員研修 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校経営目標推進委員会の始動 ・第1回グランドデザイン PDCA 研修
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・校内会議（毎週） ・学校経営目標推進プロジェクト本格始動 	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回コンソーシアム会議 →地域共創科の始動報告・協力依頼 ・第1回探究学習推進担当者研修会
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・校内会議（毎週） ・資質・能力事前調査 	<ul style="list-style-type: none"> ・島内中学生向け説明会

7月	<ul style="list-style-type: none"> ・校内会議（毎週） →一学期振り返り ・島内・島外生向けオープンスクール ・職員会議 →地域共創科設置に伴うカリキュラムと体制の進捗共有・意見聴取 	<ul style="list-style-type: none"> ・第2回コンソーシアム会議 →地域共創科の進捗共有と意見聴取
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・校内会議（毎週） ・グローバル探究 ・アーバン探究 	
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・校内会議（毎週） ・第1回学び共創フォーラムの実施 ・教員研修 	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回コンソーシアム理事会 →地域共創科の進捗共有と意見聴取 ・第2回探究学習推進担当者研修会
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・校内会議（毎週） ・島内・島外生向けオープンスクール ・10月13日 失敗の日 	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回運営指導（共創）委員会 →今年度の目標の確認と現状共有、目標達成に向けての対話 ・第2回グランドデザイン PDCA 研修
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・校内会議（毎週） 	<ul style="list-style-type: none"> ・第3回コンソーシアム会議 →地域共創科の進捗共有と意見聴取・協力依頼
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・校内会議（毎週） ・二学期振り返り 	<ul style="list-style-type: none"> ・第2回コンソーシアム理事会 →地域共創科の進捗共有と意見聴取
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・校内会議（毎週） ・地域共創科（3年生始動）実施に向けた校内体制整備 ・学科選択本調査 	<ul style="list-style-type: none"> ・第2回運営指導（共創）委員会 →実践結果の効果検証と課題の共有
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・校内会議（毎週） ・資質・能力事後調査 ・地域共創科実施に向けた校内体制整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・第4回コンソーシアム会議 →地域共創科の進捗共有 ・第3・4回探究学習推進担当者研修会 ・第3回グランドデザイン PDCA 研修
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・校内会議（毎週） ・地域共創科（3年生始動）実施に向けた校内体制整備 ・第2回学び共創フォーラムの実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・第3回コンソーシアム理事会 →地域共創科の進捗共有

令和6年度 研究開発実施報告

研究開発計画 1：地域共創科（学校設定科目：地域未来共創）の改良

1. 目標

前年度に策定した学校設定科目「地域未来共創」の運営をとおして、圧倒的な地域実践による必要な学びの深化が実現できるよう、カリキュラム開発専門家と協働してカリキュラムを修正する。また、それに伴い発生する課題を改善することとおして、探究学習に関する効果的な PDCA サイクルを確立し、その成果を「総合的な探究の時間」への応用に繋げる。

2. 実践

(1) 学校設定科目：地域未来創造の目標

様々な教科・科目や客観的事実に基づいた多面的な見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、地域の自然・文化・産業をはじめ地域の健全で持続的な発展を担う「グローバル人材」として必要な資質・能力を次の通り育成することを目指す。

- ① 地域の諸課題に対して多面的・総合的に分析し理解するとともに、課題解決に必要な知識・技能を身に付けるようにする。
- ② 地域における現代的諸課題を発見し、地域の住人として実践から得られた客観的根拠に基づいて他者と共創的に解決する力を養う。
- ③ 地域が抱える諸課題の解決を目指して自ら学び、健全で持続可能な社会の形成及び新たな創造的価値の提案に向け主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

(2) 地域共創科担当チーム（共創 DAY 運営会）

令和4年度設置した、新学科カリキュラム準備委員会を令和5年度より地域共創科担当チーム（共創 DAY 運営会）として再構成し、週に1回の定例会議を実施した。

構成員は、主幹教諭、地域教科主任（探究学習推進担当）、ゼミ担当教員、ゼミ担当コーディネーターとした。また、適宜カリキュラム開発等専門家にも会議に参加してもらい、助言・アドバイスをいただいた。

(3) 地域未来共創カリキュラム

年間指導計画を次表のように改良・実行した。

月	週	学習項目 (単元)	学習内容			到達目標 (ルーブリック)	ゼミ 活動 指標	探究 の 指標
			1 限 2 限	3 限 4 限	5 限 6 限			
4	3	共創 DAY とプロジェクトの進め方	オリエンテーション	安全管理	プロジェクト基礎 ゼミ紹介	1～7	先輩から学ぶ	広い視野でアイデアを録る
	4	ゼミ選び面談・プロジェクト基礎論						
5	2	テーマ設定 情報収集 フィールド調査						
	3							
	4							
6	1			進化思考 W.S.				

	2	活動内容の具体化			進化思考 W.S.		
	3	構想発表準備			講義「生環境」		
	4	レポート課題(活動報告含む)	期末試験				
	5	構想発表 プロフェッショナル演習	構想発表		対話と議論 グランドルールづくり	5	
	7	1	リフレクション・プロジェクト実践	面談(ルーブリック・ゼミ変更) プロジェクト活動			8~9
	3	プロフェッショナル演習 プロジェクト実践①(活動⇄整理)	講義「共創とは何か」				
9	1	プロジェクト実践①(活動⇄整理)					
	2						
	3						
	4	レポート課題(活動報告含む)	中間試験				
10	1	プロジェクト実践①(活動⇄整理)				8~11	
	2						
	3						
	4						
11	1				海外の事例調査		
	2	プロジェクト実践①(活動⇄整理) 海外事例調査	海外の事例調査				
	4	レポート課題(活動報告含む)	期末試験				
	5	プロジェクト実践①(活動⇄整理)			海外研修旅行 振り返り		
12	1	リフレクション・研修旅行整理	面談(ルーブリック・ゼミ変更) プロジェクト活動			12~15	
	2	中間発表(グローバル視点に更新)	発表・ディスカッション				
	3	プロフェッショナル演習 プロジェクト実践②(活動⇄整理)	プロジェクトの更新		講義「地球規模で考える」	5~6	
1	2	プロジェクト実践②(活動⇄整理)				6~11	
	3						
	4						
2	2	プロジェクト実践②(活動⇄整理)					
	3	レポート課題(活動報告含む)	学年末試験				
	4	プロジェクト実践②(活動⇄整理)					
3	2	プロジェクト実践②(活動⇄整理)				6~11	
	5	リフレクション	面談(ルーブリック・ゼミ変更) プロジェクト活動				
	1	プロフェッショナル演習 プロジェクト実践②(活動⇄整理)	講義「失敗」				
3	2	プロジェクト実践②(活動⇄整理)			進捗共有会(希望者)		
	3	ゼミ合同進捗共有			進捗共有会(希望者)		

自分(たち)でやってみる

足元で実践(実験・試行)

世界と関連つけて実践

(3) 探究学習を効果的に推進する「プロジェクト基礎論」の展開

「地域共創科」第2期生となる今年度の第2学年により、学科スローガンを「仲間と共に、大人と共に、地域と共に、意志ある未来を創る」と制定した。これは「多様な主体と協働し1つのプロジェクトを立案・実行」する学習と言える。このような学習には、プロジェクトを立案・実行するうえでの基礎的な知識・スキルが必要である。

プロジェクト(地域共創活動)を進めるための基礎的知識や思考フレームを右表のカテゴリで51項目抽出した。

これらを重要度別に5段階に分類し、重要度の高い項目は地域共創科全体や、ゼミの中で講義、演習することで定着を図った。重要度の低いものは、生徒の状況に合わせて適宜、教材提供することで指導の個別化を図ることとした。

大区分	中区分
探究	課題設定
	情報収集
	整理・分析
	まとめ・表現
管理スキル	目標管理
	タスク管理
	スケジュール管理
実現スキル	思考スキル
	ゴール設定
その他	隠岐島前基礎情報

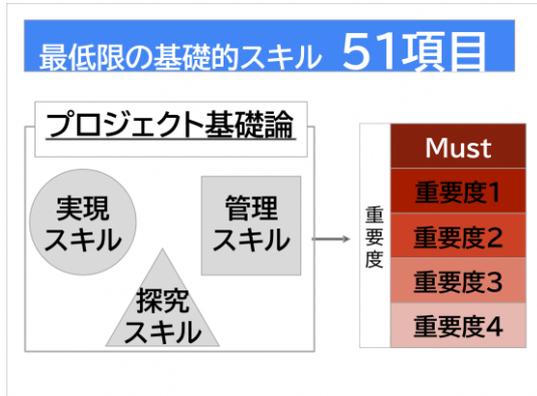
重要度	レベル内容
Must	地域共創科全体で講義、演習を行う。生徒が動き出す前に取り扱う。
重要度 1	地域共創科の各ゼミで活動初期に取り扱うことが望ましい
重要度 2	地域共創科の各ゼミで生徒の活動状況や計画を合わせて適宜取り扱うことが望ましい。
重要度 3	情報や国語など他科目で取り扱う内容又はその工夫が可能なもの。
重要度 4	地域共創科の各ゼミ担当者が、必要に応じ使えるように理解・把握しておくことが望ましい。



プロジェクト基礎論の目的

地域共創科のスローガン、「仲間と共に、大人と共に、地域と共に、意志ある未来を創る」ために、最低限の基礎的スキルを集中的に習得する。

思考 整理 表現 伝達



プロジェクト基礎論
～今後の予告～

- ・ 報連相、スケジュール・タスク管理
- ・ フィールドワークの安全管理
- ・ 探究ノート、対話と議論、企画書
タスクの緊急度・重要度

プロジェクト基礎論について説明する授業スライドの一部

(5) 持続可能な学習スタイルとしての「ゼミ」の運営

「総合的な探究の時間」等の探究的な学びにおいては、主体的な学びの視点から、生徒実社会や実生活と自己との関わりから問を見出し、自己の在り方生き方と一体的で不可分な課題を自分で立てることが大切であるとされている。このため、探究学習に関する参考資料の中には、「他者から与えられた課題(ミッション)をテーマとして取り組むのよりも、生徒の興味関心をテーマにした探究が望ましい」「自分自身の興味関心と結びつかないものであれば、やらされ感しがなく、主体的な学びとは言いがたい」といった解説が散見される。

一方、本構想は「地球的視野で直面する事象や課題を俯瞰し、考えながら、解決に向けて足元から実践していけるグローバル人材の育成」を目指し、その目的を学校設定科目(地域未来共創・グローバル未来共創)により達成することを主眼としている。従って、生徒の日常生活の場である隠岐島前地域で、実際に現場で実践、協働、共創関係を結べるテーマを研究課題として設定することで、より真正性のある学びを実現できると考える。

真正性のある学び(解決したい地域課題)の領域(テーマ)設定は、隠岐島前地域への社会貢献・社会的インパクトと同時に地域共創科のスローガンを実現するために必要な要素であり、領域(テーマ)を設定することで生徒同士の学び合い、経験の承継を生むことも期待できる。

生徒は、日常生活の中で自らの興味・関心・特技と、直面する地域課題とを整理しながら、様々な領域(テーマ)を設定することが想定されるが、過去の「スーパーグローバルハイスクール事業」「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」等における「総合的な学習(探究)の時間」での設定課題から、大きく次の4つの領域に整理した。令和6年度は、「ものづくり・技術」ゼミを、「産業・ビジネス」ゼミとして運用した。

大まかな領域	関連する領域
自然・農林水産に関すること	環境保護、動物、農業、林業、漁業、海洋、食品、(自然)食、地形、植物、畜産 等
産業・ビジネスに関すること	エネルギー、建設、運送、土木、通信、加工、機械化、技能伝承、デジタルとアナログ、ブランド、AI、アプリ 等
教育・医療・福祉に関すること	学校、子ども、高齢者、病院、保育、居場所づくり、学習、健康、ボランティア、介護、介助 等
くらし・交流に関すること	ライフスタイル、伝統、食、衣、住、場づくり(交流促進)、集落自治、観光、防災、交通、移住定住、人材還流 等

この4つの領域を、探究の小集団(ゼミ)として設置し、生徒は自らが設定した研究領域(テーマ)と関連が深いゼミに所属することで、多様で個性的な研究課題に対し、生徒の活動状況の細かな見取りと活動支援や効果的な振り返り等、大人が効果的・効率的に伴走・支援することが期待できる。また、生徒が学年を跨いで所属するゼミ内で互いの状況を共有し合うこと等により、生徒同士の学びの継承や探究手法の向上も期待でき、限られた人的資源による持続可能な学習スタイルとして期待できる。

前提となる地域共創科の方針

**仲間と共に、大人と共に、地域と共に
意志ある未来を創る**
(地域共創科スローガン)

高校生の学習意欲を喚起し、
可能性及び能力を最大限に伸長するため
(普通科改革支援事業)

ゼミは教員と魅力化スタッフのコンビで受け持つ

 主担当教員	共創DAY(毎週木曜)の1~2限はゼミでの生徒伴走を主導する。生徒への評定評価を行う。 ゼミの無い週は共創DAY運営会に出席し地域共創科の運営を協議する。
 魅力化スタッフ	担当ゼミの運営、生徒伴走を主担当教員と協議の上でサポートする。ゼミの無い週は共創DAY運営会に出席し運営を協議する。 生徒が校外活動をする場合は、適宜見回る。また地域資源の開拓に努める。

※運営会実施の際、共創DAY2~3限の生徒対応(緊急対応)は別教員が確保されている。

任意の時間	ゼミ運営、ゼミ生の状況共有 伴走方針協議、伴走・指導準備
毎週木曜日1~2限	担当ゼミでの生徒伴走
	共創DAY運営会

1つのゼミには、活動形態の異なる生徒がいる

 個人で共創活動	個人で共創活動テーマ、取組みを設計し活動している生徒。
 協働で共創活動	それぞれが設計した共創活動に関連性が高く、協働することになった生徒。
 ミッション参画活動	個人でゼミがコーディネートした共創活動に参加する生徒。 ※活動に巻き込まれる経験を経て、個人の共創活動へ移行することを促す。
 共創科3年生	共創科の3年生。自身も共創活動をしつつ、経験を活かしてゼミの時間では2年生の相談役としても活動する。

ゼミ活動の例

 活動の進捗報告	所属ゼミ生徒に、現在の活動の進捗報告を基に学習する。 ・教員と魅力化：発表に対して質問、助言を投げかけたり整理、助言する。 ・報告する生徒：報告と質疑により活動の課題や今後を明確化できる。 ・他のゼミ生徒：自身の活動の参考にしたり質疑から気づきを得る。
 グループディスカッション	ゼミ生徒に共通する、必要と考えるテーマ(命題)でのグループディスカッション。 複数人でそれぞれの主張を分かち合いながら、結論(最善の解)を導くことに向かって議論する。テーマの予想や情報収集、議論における役割分担を意識しながら進めることで総合型選抜での練習にもなりうる。
 文献・データ分析 事例研究	校外活動では、学べない文献やデータ、事例を基に学習する。 RESAS、e-Stat等の統計データを基に島前地域の地域性、変化、構成などを読み取る学習は校外(フィールド)調査に出る前に行うと校外活動での学習成果を高める。また、過去を文献から学ばずとも地域の文脈を理解する上で効果的
 面談・振り返り	学期ごと、ゼミ担当が必要と感じた任意のタイミングで面談を行う。特に夢探究の時間ではゼミごとに振り返りを行う。 面談では、活動自体より「活動経験から自身がどの様に変化、成長しているか」について問いがけられることで生徒は学習を深める。

ゼミの機能

- 共創活動の立案、問題発見、課題設定における相談対応
- 活動経験を経験知に変換する振り返り活動
- 生徒同士の経験を共有知にする情報交換
- 生徒への見取り評価の機会

ゼミについて説明する授業スライドの一部

研究開発計画2-1：地域共創科（学校設定科目：グローバル未来共創）の始動

1. 目標

前年度に策定した学校設定科目「地域未来共創」の運営をとおして、圧倒的な地域実践による必要な学びの深化が実現できるよう、カリキュラム開発専門家と協働してカリキュラムを修正する。また、それに伴い発生する課題を改善することとおして、探究学習に関する効果的な PDCA サイクルを確立し、その成果を「総合的な探究の時間」への応用に繋げる。

2. 実践

(1) 学校設定科目：グローバル未来共創の目標

様々な教科・科目や客観的事実に基づいた多面的な見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、様々な地域の自然・文化・産業をはじめ社会の健全で持続的な発展を担う「グローバル

人材」として必要な資質・能力を次の通り育成することを目指す。

- ① 様々な地域・社会の諸課題に対して多面的・総合的に分析し理解するとともに、課題解決に必要な知識・技能を身に付けるようにする。
- ② 様々な地域・社会における現代的諸課題を発見し、社会の形成者として実践から得られた客観的・科学的な根拠に基づいて他者と共創的に解決する力を養う。
- ③ 様々な地域・社会が抱える諸課題の解決を目指して自ら学び、健全で持続可能な社会の形成及び新たな創造的価値の提案に向け主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。”

(2) 地域共創科担当チーム（共創 DAY 運営会）

地域共創科担当チーム(共創 DAY 運営会)を週に1回の定例会議を実施した。

構成員は、主幹教諭、地域教科主任(探究学習推進担当)、ゼミ担当教員、ゼミ担当コーディネーターとした。また、適宜カリキュラム開発等専門家にも会議に参加してもらい、助言・アドバイスをいただいた。

(3) グローカル未来共創カリキュラム

年間指導計画を次表のように策定・実行した。

月	週	配当時間		学習項 (単元)	学習内容	到達目標
		座学	実習			
4	1					
	2	6		オリエンテーション	①なぜグローバル人材を目指しているのか、グローバルに生きるとは？ ②自分はどんな力をつけたいか？(学び、成長) ③探究と自分のキャリアをどのようにつなげていくのか(キャリア)	科目の目的を理解し、1年後の目標・ゴールをイメージすることができる。
	3		6	グローバルマイプロジェクト	探究テーマ、課題設定 仮説検証実践 実践結果分析 探究課題・仮説の検証 探究実践 実践結果分析	【グローバルアクション】 世界の課題解決・価値創造につながる実践ができる 【コラボレーション】 島外のパートナーと共創し、探究の実践に相乗効果を生み出すことができる
	4		6			
5	1					
	2		6			
	3		6			
6	4		6			【学びと成長】 「主体性」、「協働性」、「探究性」、「社会性」の資質能力が主観と客観の両面で1つ以上伸びている チームメンバーの成長に貢献することができる
	1		6			
	2		6			
	3		6			
7	1	6		中間成果発表	活動まとめ	チームメンバーの成長に貢献することができる
	2	6		発表	相互発表	
	3	6		振り返り	自分自身について振り返る(資質能力と価値観)	
	4					

8	1								
	2								
	3	6		3年最終発表会(大阪)	年度前半振り返りをもとに自己の探究ゴールの再確認				
	4								
9	1		6	グローバルマイプロジェクト	探究テーマ、課題設定 仮説検証実践 実践結果分析 探究課題・仮説の検証 探究実践 実践結果分析	＜還元還流＞ 世界の課題解決や 価値創造の学びから 島前に還元できることを見出して実践できる or ＜実証実験＞ 世界の課題解決や 価値創造のために 島前地域で足元から できることを見出して 実践することができる ＜学びと成長＞ 資質能力が主観と客観の 両面で1つ以上伸びている			
	2		6						
	3		6						
	4								
10	1		6						
	2		6						
	3		6						
	4		6						
11	1		6						
	2		6						
	3		6						
	4			3年最終発表会(島前3島)					
12	1	6		論文作成	グローバルマイプロジェクト実践記録の整理・まとめ				
	2	6							
	3	6							
	4								
1	1			探究成果の還元・継承	グローバルマイプロジェクト実践成果の普及 後輩への助言・支援				
	2		6						
	3		6						
	4		6						
2	1		6						
	2		6						
	3		6						
	4		6						
3	1								
	2								
	3								
	4								

3. 成果

(1) 校外探究実践活動に軸を置いた教材の開発

先述したプロジェクト基礎論に関する教材の他、「総合的な探究の時間」を含め、地域の方々との協働的な探究実践の効果的な推進を補助する自主教材の開発が進んだ。特に、普通教室等での一斉講義型授業とは異なり、生徒個々に異なる探究テーマ・内容及び実践進捗状況による校外学習を安全・安心に進めていくための工夫が施された。以下は ICT 教具ポータルに登録されている教材の一部を示す。

【役立つアイテム・ずっと使うもの】

- ・地域の方リスト
- ・共創 DAY で校外活動する時に必要なフォーム
- ・共創メンター一覧
- ・校外活動・実践の手引き
- ・電話・インタビュー・アンケートのやり方

【プロジェクト基礎論】

- ・探究ノートの作り方
- ・企画書作成のススメ
- ・タスクの緊急度／重要度の整理
- ・合意形成の仕方
- ・電話連絡のススメ
- ・効果的なプレゼンテーション

(2) 評価ルーブリックの運用・検証

生徒の活動状況を評価するにあたり、評価の3つの観点別に規準、目指す資質・能力等について下表のとおり整理した。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	学びに向かう姿勢
評価規準 (概ね満足できる状態)	地域の諸課題に対して多面的・総合的に分析・理解し、課題解決に必要な知識・技能を身に付けている	地域における現代的諸課題を発見し、実践から得られた客観的根拠に基づいて共創的に解決している	課題の解決を目指して自ら学び、健全で持続可能な社会の形成や新たな創造的価値の提案に向け、主体的かつ協働的に取り組んでいる
資質・能力	課題設定力、課題に関する知識	批判的思考力、情報活用力、表現力	行動力、粘り強さ、省察力、学びの意欲、共創力、地域貢献意識、グローバル意識
評価の場面	主にレポート、行動、論述試験から評価	主にレポート、発表から評価	主に行動観察から評価

上表の整理に基づき、昨年度に策定した評価ルーブリックを下表のとおり運用した。

No.	場面	基準	行動評価基準	評価場面	評価の3観点	関連する資質・能力	関連するプロジェクト基礎論
1	プロジェクトに臨むモチベーションを高める	A	自分にとっての活動の意義(実現したいこと、身に付けたいこと)が明確になっている。	面談	学びに向かう姿勢	学びの意欲	
		B	活動が自分にとってどういう意義があるのか、今後自分の人生の中の何に繋がっていくのかを考えている。				
		C	「やらないといけないからやる」という消極的な姿勢でいる。				
2	ビジョンを作る	A	取り組みを通して、地域の誰が何によって喜ぶのかを明確に設定できている。	構想発表	思考・判断・表現	地域貢献意識	未来思考と現在思考
		B	取り組むことが、地域に役立つ部分があるのかを確認している。				Will・Can・Must のベン図
		C	取り組むことが、自分にしか意味のないことになっている。				企画書の作成
3	テーマを決める	A	今までの経験の中で、よかったことだけでなく驚きや怒りなどで心が動かされたことから自分の興味があることを探している。	面談 構想発表	思考・判断・表現	省察力	
		B	今までの経験を振り返り、よかったこと、好きなことから自分の興味歩があることを探している。				
		C	自分を振り返ることなく、思い入れのないテーマを設定している。				
4	関わる分野について詳しく知る	A	テーマに関する地域の現状について、複数の立場の情報を比較して理解している。	論述試験	知識・技能	批判的思考力	
		B	テーマに関する地域の現状について、リアルな情報をもとに理解している。				
		C	テーマに関する地域の現状について、リアルな情報を収集できていない。				
5	プロジェクトを具体化する	A	興味のあることについて、いろいろな側面から検討し地域の現状も把握した上で、具体的な目標と目標達成の方法が考えられている。	論述試験 構想発表	思考・判断・表現	情報活用力	
		B	興味のあることについて、世の中で話題になっていることや少し専門的な議論に触れ、いろいろな側面から検討して活動内容を決めている。				
		C	興味のあることを見つけても、やりたいことが漠然としていたり、具体的すぎたりしてプロジェクトに取りかかることができない。				
6	企画を立てる	A	フィールドワークや実験などで本物に触れ、自分の足で十分に情報を集めて活動内容を決めている。	構想発表	知識・技能	行動力 情報活用力	インタビュー、アンケート
		B	フィールドワークや実験などで本物に触れるようにし、そこで得た自分自身のリアルな感覚をもとに考え、活動を進めている。				
		C	資料からの情報に頼り、リアルなものに十分に触れることができていない。				
7	記録を残す	A	活動記録の内容が充実していて、その記録を活用することができている。	ノート	思考・判断・表現	情報活用力	探究ノート
		B	毎回の活動記録を、後で見返してわかるように残すことができている。				
		C	毎回の活動記録が残せていない。				
8	企画を実現する	A	やるべきことを具体的に整理し、ゴールから逆算して無理のないスケジュールで進められている。	活動報告 行動観察	知識・技能	行動力	スケジュール/タスク管理
		B	まずはいろいろな方法で多くの情報を入れ、次にやるべきことを見つけることから始めている。				
		C	はじめによく考えたり計画したりしようとするあまり、延々と話し込んだり考え込んだりしてしまい、一向に活動を進められていない。				緊急度/重要度マトリクス

9	進捗を確認する	A	現在の進み具合や方向性を確認した上で、活動をさらに飛躍させるような仕掛けを加えることができている。	活動報告 行動観察	思考・判断・表現	粘り強さ	スケジュール/タスク管理
		B	ゴールに対する現在の進み具合や方向性を確認する時間をとり、取り組み方を柔軟に変更できている。				
		C	ゴールと異なる方向に進んでいたり、停滞しているがその状況に気づいていない、または気づいただけで行動を起こしていない。				
10	外部の人と一緒に取り組む	A	関わる人の考えを出し合った上で、興味や強みが生きる方法をお互いに考えて、活動に結びつけている。	協力者からのコメント	学びに向かう姿勢	対話力 共創力 受容力	
		B	関わる人や現場の意見・やり方を尊重し、信頼を積み上げることができている。				
		C	自分の考えややりたいことを推し進めようとして、関わる人に信頼されていない。				
11	障害を乗り越える	A	妥協せずに話し合いと実践を重ねて粘り強く解決している。	行動観察 論述試験	学びに向かう姿勢	粘り強さ	対話と議論の違い
		B	現状とゴールを俯瞰して、解決するための手立てを1つ試行している。				
		C	障害を理由に実践そのものを変更したり、妥協したりしている。				
12	整理する	A	集めた情報の特徴や目的に合わせて、効果的に整理・分析できる方法を探し、取り入れている。	ノート 論述試験	知識・技能	批判的思考力	
		B	集めてきた情報やそれについての気づきを書き出し、目に見える形にしている。				
		C	集めた情報を効果的に整理できず、有益な発見が得られていない。				
13	考察する	A	得た情報やそこから発見について他の人と話し、自分の理解に偏りや誤りがないかを確認したり、他の視点・解釈を取り入れたりしている。	ノート 論述試験	思考・判断・表現	批判的思考力	
		B	意味がありそうな特徴や傾向をつかむことができている。				
		C	集めた情報や実践から何が言えるかをつかめていない。				
14	成果をまとめる	A	まとめの仕上がり妥協せず、細部にこだわってまとめあげる。	発表 論文	思考・判断・表現	学びの意欲 表現力	レポートの書き方
		B	プロジェクトの中で最もみんなに知ってもらいたいことをメインメッセージとし、他の情報はそれを支えるための位置付けとしてまとめられている。				引用・参考文献のルール
		C	メインメッセージとそれを支える情報を、分かりやすい構成でまとめることができている。				発表の仕方
15	プロジェクトを通した自分の成長を振り返る	A	うまくできたこと、できなかったこと、できるようになったことを踏まえて、学んだこと、成長したことを考えられている。	リフレクシ ョンシート	学びに向かう姿勢	省察力	
		B	プロジェクトでやってきたことを俯瞰して、うまくできたこと、できなかったこと、できるようになったことを考えられている。				
		C	プロジェクトを俯瞰してうまくできたこと、できなかったことなどを振り返ることができていない。				

年間学習計画と生徒の探究実践の段階に応じて、1学期はルーブリック No.1～7、2学期はルーブリック No.8～15 により学期評価を行い、3学期(学年末)はルーブリック No.1～15 により総括評価を行った。

評価は、評価ルーブリックと評価計画を事前に生徒に共有し、学期評価・学年末評価ともに、教職員による評価と生徒による自己評価とを面談により共有し、それぞれの評価根拠を説明・理解したうえで最終的な総括評価とした。この目的は、「生徒の自己評価(メタ認知)の精度を上げ、自己評価・他者評価を比較して他

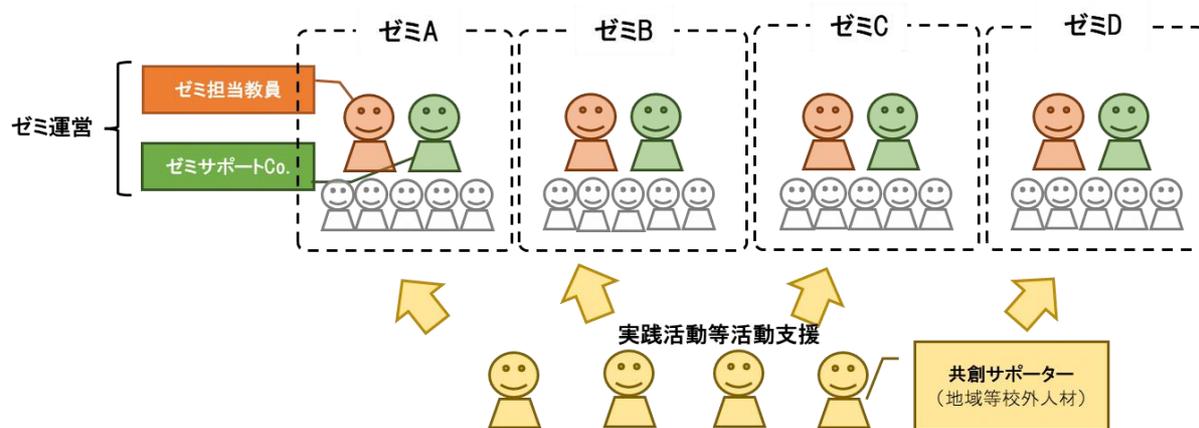
者(教員等伴走者・他生徒)評価の納得感を高めることを通じて、自己のよりよい成果・成長に向けて、自律的に進めていけるようにする」ことである。この結果、生徒の反応は次のようであり、概ね肯定的に受け止めていた。

- ・教員の評価については前向きにとらえる生徒が多く、応援することができた。
- ・自己評価の方が低い傾向にあった。適切に現状把握ができるようになったのではないかな。
- ・一方的に教員に評価されることに違和感があるという生徒もいた。定期的な面談が必要な生徒もいると思う。
- ・現在地把握のための評価である、と生徒は理解している様子だった。
- ・「面談こわかった」と話す生徒もいたし、行動に対するフィードバックがあり、「ちゃんと見てくれている」と喜んでいる生徒もいた。

課題として、今回運用した評価ルーブリックは、探究の過程に基づく「実践行動・結果」主な評価要素として策定されたものであるが、この評価結果が育てたい資質・能力と、生徒個々が感じる自己の資質・能力の伸長と必ずしも強い相関があるとは言い難いことにある。学習計画を策定する教師側の「思い・願い」と、学習者である多様な生徒の「思い・実感」とが完全に一致することは困難であり、多様な学習集団を「公平・公正」に評価しようと努めるものの、それは評価者・学習者双方にとって完全に「妥当」であるかどうか、課題が残る。

(3) 伴走・支援体制

学校設定科目「地域未来共創」「グローバル未来共創」の推進・運営体制は5(7)iv)で説明したとおりだが、生徒の実践的な探究活動を伴走・支援する体制として、下図の体制を整えた。



主な役割分担は下表のとおり。

ゼミ担当教員	ゼミの運営を担当し、学習活動の指導・評価をおこなう
ゼミサポートコーディネーター	ゼミ担当教員を助け、ゼミの運営をおこなう 共創サポーター等、校外の人的・物的資源との接続をおこなう
共創サポーター	それぞれの専門的知見から生徒の活動を支援する ・メンター：オンライン等により、生徒の壁打ち役となる ・地域協力者：対面で生徒の実践を支援・助言する

令和6年度は共創サポーターとして、高校時代に探究学習やプロジェクト学習に精力的に取り組み、卒業後もその経験を生かして活動している大学生(一部、大学院生並びに社会人含む)を島根県内の卒業生コミ

ユニティから抽出した。この人材プールは32名となっている。また島外の経営者向けに島内ツアーを行った際に高校生の探究学習をブラッシュアップする交流企画を実施した。この人材プールは12名となっている。また島前ふるさと魅力化財団主催企画等に参加履歴のある島内外の社会人に対して人材バンクについて高校の取り組みを告知した。この人材プールは140名となっている。

研究開発計画 2-2：グローバル未来共創のカリキュラム開発

1. 目標

地域未来共創を稼働させながら、そこで発生した問題点なども踏まえて、グローバル・コーディネーター等と協働し、令和5年度に確定させたカリキュラムをより具体的・効果的に修正する。

2. 実践

(1) 学校設定科目：グローバル未来共創の目標

様々な教科・科目や客観的事実に基づいた多面的な見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、様々な地域の自然・文化・産業をはじめ社会の健全で持続的な発展を担う「グローバル人材」として必要な資質・能力を次の通り育成することを目指す。

- ① 様々な地域・社会の諸課題に対して多面的・総合的に分析し理解するとともに、課題解決に必要な知識・技能を身に付けるようにする。
- ② 様々な地域・社会における現代的諸課題を発見し、社会の形成者として実践から得られた客観的・科学的な根拠に基づいて他者と共創的に解決する力を養う。
- ③ 様々な地域・社会が抱える諸課題の解決を目指して自ら学び、健全で持続可能な社会の形成及び新たな創造的価値の提案に向け主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

(2) グローカルの視点

本事業を通じて、本校が目指す「グローバル人材」の育成に向けて、次の視点を主眼に置き、カリキュラムの見直しを行った。

視点①：還元還流

世界の課題解決や価値創造の学びから、隠岐島前地域に還元できることを見出して実践する

視点②：実証実験

世界の課題解決や価値創造のために、隠岐島前地域で足元からできることを見出して実践する

(3) グローカルの視点を活かし、グローバル未来共創へ効果的に接続する探究プログラム

i) 海外研修旅行

以下の目的・日程により、第2学年全員を対象とした海外研修旅行を実施した。

① 目的

- ・隠岐島前地域の外に飛び出して、人の営みを通じた現地の自然・歴史・文化・産業・価値観等に触れることにより、島前地域やふるさとを見つめ直す機会とする。
- ・韓国を訪問し、現地の人々との交流や異文化との接触を体験することにより、「多様性」や「協働性」について新たな発見や感動を促す機会とする。
- ・世界の公用語である英語を用いたコミュニケーションを実践的に行う環境に身を置くことで、よりグローバルな視点で自己や世界を捉え直し、世界で活躍しようとする意欲を喚起する。

② 日程

11月10日(日)	
時間	行程
8:14	菱浦港出発【高速船】
10:17	境港着
13:20	米子空港着【貸し切りバス】
15:50	米子空港発【エアソウル 746 便】
17:20	仁川空港着
21:00	ホテル着【貸し切りバス】

11月11日(月)	
時間	行程
8:30	ホテル発【貸し切りバス】
	ソウル市内施設見学 ・景福宮 ・国立民俗博物館 ・国立中央博物館
14:00	班別ソウル市内異文化研修
20:30	ホテル集合

11月12日(火)	
時間	行程
8:10	ホテル発【貸し切りバス】
8:50	・慶福ビジネスハイスクール着 ・生徒交流活動
14:00	ホームステイ準備
15:30	ホストファミリー対面 ・ホームステイ

11月13日(水)	
時間	行程
	ホテル集合
10:00	ホテル発【貸し切りバス】
10:50	仁川空港着
13:20	仁川空港発【エアソウル 745 便】
14:50	米子空港着
15:50	米子空港発【貸し切りバス】
16:20	旅館着

11月14日(木)	
時間	行程
9:00	振り返り学習
12:00	旅館発【貸し切りバス】
12:20	境港着
14:25	境港発【フェリー】
17:27	菱浦港着

③ 内容

・ソウル市内施設見学

歴史と異文化理解を深めるための研修として、景福宮、民俗博物館、国立中央博物館を見学した。

李氏朝鮮時代の歴代国王の王宮である景福宮は、約 200 年の朝鮮時代の政治の中心地として長らく繁栄した場所であることから、その広大さと当時の建築技術の高さに圧倒されるとともに都会的な街の中に伝統的な建築物が共存している様子が印象的だった。

民俗博物館では、韓国人の一生や日常生活を知ることのできる様々な資料が展示されており、異文化とは言いつつも、日本と似たような文化もあり、隣国との関係の強さを感じることができた。

国立中央博物館は、韓国の古代～現代の歴史、韓国の文化史、世界の歴史についての展示があり、最新の技術を駆使して映し出される歴史的な資料・絵画・陶磁器などに韓国の歴史の奥深さを感じることができた。



民俗博物館見学の様子

・ 班別ソウル市内異文化研修

韓国の文化・ファッション・経済等を肌で感じることを目的に、事前にグループメンバーで行き先を決めて、目的地を探しながら異文化を体験した。言葉や交通の困難を克服しながらも、それぞれが韓国という国を肌で感じる事ができた。



市内観光の様子

・ 慶福ビジネスハイスクール生徒交流活動

午前は、マッチングしたペアが協力してハンディクラフトに挑戦した。悪戦苦闘しながらもコミュニケーションを交わしながら、うまく仕上げる事ができた。昼食は学食でそれぞれのパートナーとグループで摂った。あつという間に打ち解けたようで、食後に購買で買い物を楽しむ姿も見られた。

午後からは英語による自己紹介、それぞれの探究活動に関する質疑応答を行った。言葉や意図がなかなかうまく通じないこともあり、自分が言いたいことをどうやって伝えるのか、相手が何を言おうとしているのかを試行錯誤しながらも、互いに真剣に話を聞きながら、丁寧に答える姿が見られた。

対面でのやりとりこそが本当の学びになると改めて感じ、生徒たちからは「もっと英語を勉強しておくべきだった」「韓国についてもっと調べておけばよかった」「韓国語がわかるようになりたい」という声がたくさんあがり、韓国語を少しずつ使っている様子も見られた。



現地校生との交流・発表の様子

・ホームステイ

ホストの皆さんに生徒をホテルに迎えに来ていただき、大学見学やドラマや映画のロケ地や観光名所に連れて行ってもらったり、買い物や外食を楽しんだり、伝統衣装を着て楽しんだり、家庭でゲームや会話を楽しんだりして、それぞれがホストファミリーのみなさんと過ごすなかで、韓国の生活・文化を体験した。



ホストファミリーとの食事の様子

④ 成果

この度の海外研修旅行を通して、参加生徒は広い視野で様々な気づきを得ることができた。特に文化的共通性や相違性に関する気づきの声が多く、研修旅行の目的の一つである、「多様性」や「協働性」について新たな発見や感動を促す機会となった。また、この研修旅行での気づきや学びについて、

- ・日本とは違う歴史に触れることができた。
- ・ホームステイで韓国人の親切さを知った。
- ・(班別行動で)自分たちだけで韓国のリアルを体験できた。
- ・自分は世界中に行ってみたいから一段と英語(他言語)の勉強を頑張りたいと思った。
- ・今後進路を決める中で視野が広がったと思う。

・韓国は反日意識を持っている方が多いのかと思っていたけど、実際は高校生は日本のアーティストや、アニメを好きでいてくれたし、道端を歩いている人に声をかけても嫌な顔をされることはあまりなかったので、若い方は反日意識を持っている方は少ないことがわかりました。

といった意見が見られ、よりグローバルな視点で自己や世界を捉え直し、世界で活躍しようとする意欲の喚起に繋がったと思われる。

ii) グローバル探究

以下の目的・日程により、対象者を公募・選定した海外探究研修を実施した。

① 目的

- ・海外の人々との交流や異文化に触れることで新たな発見をすると同時に、自国や郷土の魅力、地域の課題などを改めて見つめ直す
- ・探究学習の過程でグローバル人材としての資質・能力を高める

② 全体日程

- ・5月～7月：隠岐島前地域での事前探究活動
- ・7月：ブータン渡航 フィールドツアー（7月29日(月)～8月7日(火)）
- ・9月～12月：隠岐島前地域での継続的な実践活動
- ・12月以降：最終成果発表

③ 内容

・隠岐島前地域での事前探究活動

海士町設置の公営塾「隠岐の國学習センター」と連携し、「環境」・「宗教」・「食」・「歴史」・「文化」をキーワードにジャンル分けをして、海士町とブータンとの共有点を見出しながら探究テーマを模索することから活動を開始した。島前高校の教員や、隠岐ジオパーク所属の福田 氏をゲストトークに招き、ブータンに関する理解を深めるとともに、探究テーマをもとに現地訪問中に実施可能な内容を精査し、実践につなげる準備を行った。

ブータンは現在人口流出が社会問題化している。海士町もかつては人口流出が問題となり、改善に向かいつつある経緯がある。同じ課題を持つブータンの人口流出に歯止めをかけるために島前高校の生徒として何ができるのか、現地の高校生とプロジェクト学習の交流を通して解決の方法を探るとともに、ブータンでの探究を海士町での探究に生かし、さらには日々の生活に生かすための活動準備を行った。

・ブータン渡航 フィールドツアー

事前探究活動の実践結果を資料としてまとめ、次の日程で、ブータンフィールドツアーを実施した。ブータンの訪問先の高校では、これまでの実践結果を中間発表として英語で発表した。また、ブータン滞在中も、現地のフィールド調査、訪問先の高校生とワークショップ等を実施した。

日程	宿泊地	予定
7/29 (月)	機内泊	<ul style="list-style-type: none"> ・15:15 菱浦発→17:55 七類着(フェリー) ・米子空港内にて夕食 ・20:20 米子発→21:45 羽田着(NH-390 便) ・24:05 羽田発→04:35 バンコク着(NH-849 便)
7/30 (火)	Hotel Taktsang ティンブー市内	<ul style="list-style-type: none"> ・7:30 バンコク発→11:00 パロ(ブータン)着(KB-131 便) ・パロ空港からティンブー市内へ移動
7/31 (水)	Guest House チュカ	<ul style="list-style-type: none"> ・ブータン教育省表敬訪問(9:00-11:00) ・ティンブーよりチュカへ移動 ・Chukha Central School にてワークショップ準備
8/1 (木)	Guest House チュカ	<ul style="list-style-type: none"> ・Chukha Central School にて探究成果発表と交流
8/2 (金)	Dudjum Paksum Hotel チュカ県ゲドゥ市内	<ul style="list-style-type: none"> ・Chukha Central School にて交流 ・チュカよりゲドゥ市内へ移動
8/3 (土)	Dudjum Paksum Hotel チュカ県ゲドゥ市内	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲドゥ市内より Gedu Higher Secondary School へ移動 ・Gedu Higher Secondary School にて交流 ・フィールドワーク
8/4 (日)	パロ市内	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲドゥ市内より Pakshika Central School へ移動 ・Pakshika Central School にて交流 ・フィールドワーク ・ゲドゥ市内よりパロへ移動
8/5 (月)	機内泊	<ul style="list-style-type: none"> ・10:35 パロ発→16:05 バンコク着(B3-700 便) ・21:35 バンコク発→05:50 羽田着(NH-850 便)
8/6 (火)	-	<ul style="list-style-type: none"> ・21:35 バンコク発→05:50 羽田着(NH-850 便) ・羽田空港 解散



事前学習 海士町の食について



パクシカの生徒との記念撮影



チュカのマーケットで店員さんにインタビュー



PBL ワークショップの日のランチタイム



PBL ワークショップに向けての準備作業中

・ 隠岐島前地域での継続的な実践活動

ブータンフィールドツアー後も探究テーマに関する協議を重ね、海士町に在住している大人にコミュニティに関する困りごとを聞いたりブータン人との交流のあり方について相談したりして、考察を深めた。これら探究実・践活動で得た成果を資料としてまとめた。

・ 最終成果発表

資料としてまとめた成果を、本校の学園祭で高校生に、隠岐島前地域3町村の中学生にそれぞれ発表した。また隠岐國学習センターでも成果発表を行った。



隠岐の國学習センターでの発表の場面

④ 成果

これらグローバル探究への参加やブータンへの渡航をとおり、参加生徒たちに視野の広がりや、世界に対する好奇心の向上が見られた。以下は、参加生徒の感想。

生徒 A

「人とコミュニケーションをとることが私は得意でした。でもそれは日本語を通してのもので、他言語のコミュニケーションは私にとって未知のもので不安でした。ブータンの方々が親切で思いやりのある方ばかりだったこともあって、得意と言えるほど現地の人と仲良くなり、自分の伝えたいことをどうにかして伝えようとするコミュニケーション力の基礎力を伸ばすことができました。初海外がブータンで本当によかったと今1番友達に伝えたいです。」

生徒 B

「コミュニケーションは苦手ではないと思っていたのですが、知らない言語だからうまく話せないかもと少し不安に思っていました。話したいという意欲はありましたが、もしわからなかったら全部 Yes で答えたらいいか、と思ったことも渡航前にはありました。

実際に現地で高校生と話してみると、やはりなんと言っているのかまるでわからない。自分がおろおろしていることで周りの子も困っているのにととても申し訳なさを感じていました。

でも、そこでなんとか会話をを行うための方法を考えました。例えば、質問や言いたいことを紙に書いてもらうようにしたり、絵を書いて説明してみたり。ポロポロの英語でも伝わり、喜んでくれて会話がはずんだことがきっかけで、自信にもなりました。

はじめは文法がおかしくちゃいけない、変なこと言ったらどうしよう、と発言する文章を一個ずつ頭の中で考えてから少しずつ話していたのですが、「今」伝えたいことがあるなら、ゆっくりでもいいから、自分にできる最大限をつくしてどんな手段を使ってでも全部伝えよう！という粘り強さを身につけることができました。」

生徒 C

「今回のブータンの渡航で探究の楽しさを知れたらいいと思っていたけど自分的にはまだよくわかっていない。でもブータン渡航だけが探求の期間じゃないってことは掴んでおこなきゃいけないことだった。むしろ CCS でプレゼンテーションをする時間より、フィードバックしたりリフレクションをしたりする時間の方が長かったように、ブータンから帰ってきた今からの方が大事で探究の深い部分に入って行くのではないかな。

PBL クラブでのプレゼンの日に来賓として来てたひとが言っていた。賢さにはアカデミックな賢さとスマートな賢さがあって、アカデミックな賢さは学校で先生から学ぶような勉強だけど、スマートな賢さは先生も教えてくれないし PBL のような探究活動でしか手に入れられないと。スマートな賢さは人生を面白くさせると。

この話を聞いた今、私はこのスマートな賢さを手に入れるために島前高校に入りたかったんだなと思った。勉強はこれからいつでもできるから、今しかできない勉強じゃないことをしたいって思って島前高校に入ったけど、まさにそれがスマートな賢さということに気づいた。

ブータン探究で国とか生活について新しいことをたくさん知れた。例えばブータンの高校生は友達同士では英語じゃなくてゾンカ語を使うということ。これはブータンに行かなければわからなかったこと(自分の感覚と常に比較しながら生活できるから、本だけではわからないこと)だった。だけど、全体的に見て、何かを吸収して手に入れた感というよりは、自分について整理をしてきた感。全力で楽しめた、100%楽しかったと言えないこの感じ。観光ではないからこの感覚は正しいのかもしれないけど、でも満足してないかって言われるとやることはやってきたと言える。特定の圧倒的な気づきが得られなかった、ほんとにこれで良かったのか感。これが当たり前なのか?この感覚のままブータンでの渡航を終えて良かったのか??ってモヤモヤしてる。

他の3人がどんなことを感じて学んだのかこの熱が冷めないうちに聞きたい!(オンラインじゃなくて対面で)

でもブータンで聞いた話とか見た物とか会った人とかぜんぶ忘れたくないって思う。そのためには記録しておかなきゃいけないしこれからいろんなことに活かしていけない!!!!

ブータンにもう一度行くことはできないので、経験してきたことを他の人に伝えたり何かに活かすことを全力で頑張っていきたいとすごく今思った。

英語を使う生活がどんな感じが知れたし日常会話と、お会計の時とか飛行機内で使う英語と、ディベートとかリフレクションの時に使う英語は違うことがわかった。」

研究開発計画3：成果目標、活動指標の検証

1. 目標

本事業の申請・計画時に設定した成果目標・活動指標について、適宜検証し、取り組み内容の改善に努める。

2. 結果

(1) 令和6年度の目標設定値と達成状況

本構想において実現する成果目標（アウトカム）	R6 目標	達成状況
卒業後のグローバルな進路選択者（スーパーグローバルユニバーシティや地域協働系学部への進学割合）	25%	42.6%(20名)
卒業後も隠岐島前地域に積極的に関わろうとする生徒数（関係人口数）	20人	52人
地域人材を育成する高校としての活動指標（アウトプット）	R6 目標	達成状況
主体性、協働性、探究性、社会性における「自己能力認識」で肯定的意見が75%以上	78%	主体性:69.1% 協働性:75.3% 探究性:72.9% 社会性:72.7%
主体性、協働性、探究性、社会性における「行動実績」で肯定的意見が80%以上	83%	主体性:75.8% 協働性:71.6% 探究性:72.0% 社会性:60.5%
安心・安全の土壌、多様性の土壌、対話の土壌、開かれた土壌における生徒の肯定的意見が90%以上	90%	主体性:61.3% 協働性:89.0% 探究性:77.4% 社会性:68.9%

成果目標（アウトカム）について、卒業後のグローバルな進路選択者数及び地域に関わろうとする人数共に、目標値を大きく上回ることができた。「地域共創」に関する全校的な取り組みの成果であると評価できる。また、卒業後も隠岐島前地域に積極的にかかわろうとする生徒数が目標値を大きく上回ったことから、地域課題と現代的諸課題やグローバル意識が連続的なかかわりを持っていることを意識している生徒を多く送り出せていると言える。

活動指標（アウトプット）については、本年度の目標値は前年度より高い値を設定していた。「自己能力意識」「行動実績」ともに全校の数値としては昨年度から大きく伸ばすことができなかったが、2、3年の地域共創科の数値がいずれも高い（P 高校魅力化評価アンケート）ことから、今後地域共創科で成果のあった取り組みを普通科へ応用することで今後の伸びが期待できる。

(2) 研究開発に係る評価

i) 生徒のアンケート調査

研究開発における検証・評価については、島根県教育委員会と三菱 UFJ リサーチ&コンサルティングが協働で開発・実施する「高校魅力化評価システム」を活用する。今年度も1回目調査として「①学習活動（明示的なカリキュラム）」、「②学習環境（学びの土壌：非明示的なカリキュラム）」、「③生徒の自己認識（資質・能力の主観的認識）」、「④生徒の行動実績（資質・能力の発揮）」に関して7月に、第2回調査として「③生徒の自己認識（資質・能力の主観的認識）」、「④生徒の行動実績（資質・能力の発揮）」に関して、調査対象を生徒に限定し、3年生は12月に、1・2年生は2月に実施した。

1・2回目調査結果の概略 数値は肯定的回答を示す

			主体性	協働性	探究性	社会性
高校としての活動指標	③生徒の自己認識	R2年度	64.6%	78.0%	63.1%	69.0%
		R3年度	69.2%	79.6%	65.5%	73.7%
		R4年度	69.0%	76.4%	73.0%	69.1%
		R5年度	68.3%	79.7%	74.3%	72.6%
		R61回目	69.6%	77.8%	74.2%	72.3%
		R62回目	69.1%	75.3%	72.9%	72.7%
		他地域	71.3%	79.7%	72.1%	64.3%
	④行動実績	R2年度	76.4%	75.0%	67.5%	69.2%
		R3年度	78.8%	79.9%	69.8%	70.7%
		R4年度	79.3%	78.0%	74.0%	76.3%
		R5年度	79.0%	81.0%	75.9%	75.2%
		R61回目	75.0%	77.2%	75.4%	75.0%
		R62回目	75.8%	71.6%	72.0%	60.5%
		他地域	72.3%	73.1%	67.8%	33.4%

③「生徒の自己認識」については、令和2年度からの経年推移をみて本校内では大きな変化がないが、他地域（県内高等学校平均値）と比較すると「主体性」「協働性」「探究性」「社会性」のいずれも下回っている。

第2回のアンケート結果では「主体性」においては、「52. 私は、自分自身に満足している」が学校全体で50.8%、「40. 目標を設定し、確実に行動することができる」が61.0%、「53. 自分で計画を立てて活動することができる」は60.2%と低い。「51. 自分にはよいところがあると思う」は学校全体では83.1%と高い。一方、「社会性」においては他地域64.3%と比較して72.7%と非常に高い。これらの数値から、自分自身の長所や強みを理解してはいるものの、多くの大学生や社会人、企業を経営している人材や地域の方々といった多種多様なロールモデルと接する機会が多いため、高い位置に目標を設定している結果であるとみることができる。

④「行動実績」については、「主体性」「協働性」「探究性」「社会性」のいずれにおいても他

地域より高い数値が出ている。特に「社会性」においては他地域の 33.4%と比較して数値の下がった 2 回目でも 60.5%と非常に高い。地域共創科 3 年生は「69. 今住んでいる地域の行事に参加した」「77. 先生、保護者以外の地域の大人と、何気ない会話を交わした」の項目において 100%という数値であり、地域と共創する本校の探究学習の成果と言える。

その他、「78. 国際社会の課題解決に貢献したい」「79. まだ世の中にない新しい技術やサービスを生み出してみたい」が地域共創科 3 年生において 100%と高い数値となっており、同様にグローバル人材の育成として地域共創科の教育活動がグローバル人材の育成に貢献していると言える。

(3) グローカル志向の指標

下表は、公益財団法人日本英語検定協会主催の実用英語技能検定合格状況をまとめたものである。過去 6 年間で比較すると、令和 6 年度は若干の減少がみられるものの、上位級の技能検定へ挑戦する生徒数及び合格者数が増加しており、グローバル・コミュニケーションへの関心の高まりがうかがえる。

実用英語検定合格者数推移

	令和6年度				令和5年度				令和4年度				令和3年度				令和2年度				令和元年度				
	1回	2回	3回	合計																					
2級	6	0	2	8	8	4	2	14	7	1	2	10	6	1	0	7	2	4	5	11	6			1	7
準2級	3	1	7	11	3	1	4	8	6	3	10	19	7	2	5	14	4	4	8	16	1	1		4	6
3級	0	0	0	0	5	0	2	7	4	0	2	6	0	3	0	3	0	1	0	1	0			3	3

(4) 運営指導委員会記録

第 1 回 運営指導委員会

i) 内容

日時： 令和 6 年 1 0 月 1 2 日 (火)

次第： 1. 開会行事

- ① 校長挨拶
- ② 委員紹介
- ③ 事務連絡

2. 議事・協議

隠岐島前高等学校事業説明

- ① 令和 6 年度研究開発の概要
- ② 令和 6 年度研究計画
- ③ 令和 6 年度実施状況
- ④ その他

3. 閉会行事

第2回 運営指導委員会

i) 内容

日時： 令和7年2月4日（火）

次第： 1. 開会行事

① 校長挨拶

② 委員紹介

③ 事務連絡

2. 議事・協議

隠岐島前高等学校事業説明・意見交換

3. 閉会行事

ii) 運営指導委員からの主な指導・助言

藤井委員

通信制の高等学校への進学の高まり等の中、普通高校での探究の在り方が問われている。支援体制をどう創っていくのか、独力で生徒が課題に向かっていく力をどう育てるのか。教職員スタッフによる伴走を手厚くするよりは、生徒がどういう人を探していく、または物がなければ作っていくという力をどう育てていくのか、そういう視点を持つ必要があるのではないかと思う。泥臭く突破していく、道を作っていくというたくましさ 手厚く支援することは助けすぎでしまい、生きる力の弱さにつながる側面がある。

宮野CN

地域共創科2期生の特徴として、共創科の授業の中でしか活動しない、つまり授業として受けている感覚である。自分の探究について自ら様々な時間やシーンで活動する中で、「学校の時間が使える」という感覚をどうやったら育てることができるのかが課題。地域活動でもあり、クラブ活動でもあり、といった生徒を育てたい。

熊平委員

メンタルモデルの問題。今までは自分の力で何とかしなければと考える人が多かった。これは社会に出ても同じように考えている人が多い。こうなってほしいと押し付けるのではなく、ティーチングでマインドを変えることができるのではと思う。社会でのソーシャルシンキングの高まりでシステムチェンジの重要性が高まっている。システム思考を子どもに入れてもいいのでは。

宮野CN

マイプロジェクトアワード全国大会の成績優秀者には共通している事柄がある。いろいろな人の助けを得ていることにより、探究のスケールが大きくなり、社会貢献につながっている。または、好きなものをとことん突き詰める。どちらにしても授業外で「のぼせて」やっている。

道川委員

関わりすぎることが島外生の力を削いでいる可能性がある。また教えてあげることの必要性が島内生にはある。多様な生徒がいる中で、どの生徒も探究に関して日本一を目指さなければならないのか。動き出すまでは待つ必要もある。それぞれのやりたいものを応援することを守りたい。

研究開発計画 4：振り返りと改善

1. 目標

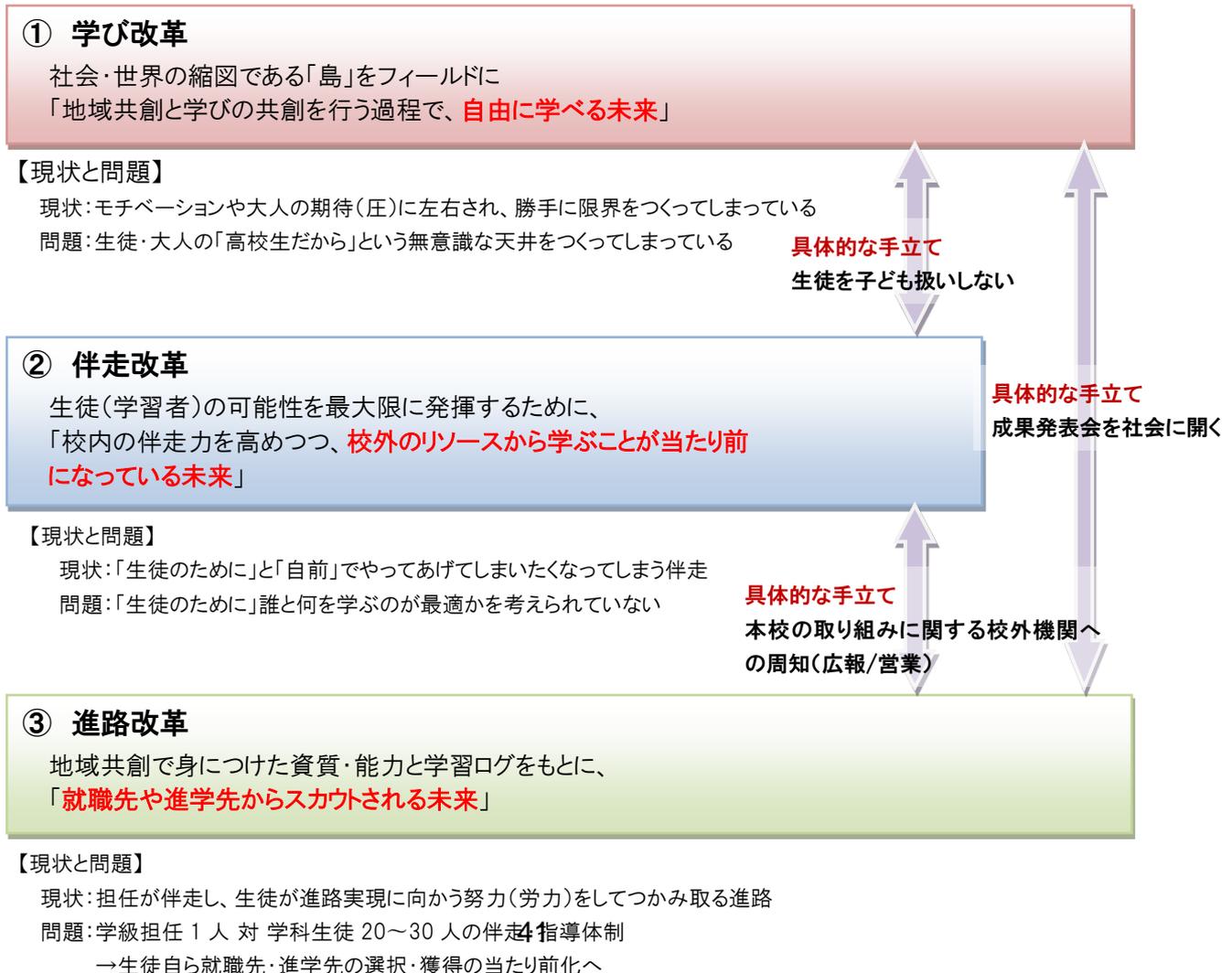
地域共創科の運営にあたり、校外の地域リソースを活用しながら、より効率的・効果的な指導・伴走体制の研究を深め、普通科や他校の探究学習への成果還元・普及を目指す。

2. 内容

毎週の定例会議の中で議論を深めながら、専門家にも適宜入っていただく中で、以下のようにまとめている。来年度は、運用していく中で、適宜振り返りを行い、改善していきたい。

(1) 普通科改革の先に目指す姿と現状分析

地域で学ぶ意義：島は「社会の縮図」、地域共創を通して、島に戻っても、他地域・海外に羽ばたいても活躍できるグローバル人材へ



(2) 改善

①地域共創科のビジョン策定や運営、適切な学科選択生に学校をあげて運営していける体制構築

- ・学校経営目標への位置付けや学科長・学科主任などの体制づくり
- ・地域共創科の説明責任をはっきり持った学科選択・中学校への説明

②生徒の可能性を最大限に引き出し、伴走の幅を広げる外部人材・外部リソースの活用拡大

- ・外部講師の登用や連携機関(企業・大学)の開拓
- ・構想発表会を外部向けに行う/発信する
- ・外部発表会への参加

③進路改革を進めるための、キャリアと連動した体制と発表会の位置付け見直し

- ・学習センターと連動したキャリアセンターの設置
- ・外部企業や大学を招いた中間発表会・成果発表会の実施
- ・海外大学の開拓や国内大学の「地域共創科指定校」開拓

④資金の獲得

- ・プロジェクトベースの外部資金獲得や支援金などの開拓

資料



【島根県立隠岐島前高等学校】地域社会学科（設置（令和4年度））

離島発「グローバル人材」育成のための「教科・探究学習が有機的に融合したカリキュラム」の開発



別紙様式3

学校全体および事業対象の生徒数

学科\学年	1	2	3	合計
普通科	51	61	55	167

『チーム地域』による協働

『グローバル人材』の育成を支えるコンソーシアム
島根県教育委員会、隠岐島前高等学校、一般財団法人島前ふるさと魅力化財団、隠岐国学習センター、海士町、西ノ島町、知夫村および三町村教育委員会、地元住民らで構成

(2) 目標設定

**新時代に対応した高等学校改革推進事業（普通科改革支援事業）
目標設定シート**

本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）

		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	目標値(7年度)
a	(成果目標) 卒業後のグローバルな進路選択者(スーパーグローバルユニバーシティや海外への進学、地域協働系学部への進学の割合)						単位: %
	本事業対象生徒:			15	15	25	25
	本事業対象生徒以外:						
目標設定の考え方:							
b	(成果目標) 卒業後も隠岐島前地域に積極的に関わろうとする生徒数(関係人口・還流人口数)						単位: 人
	本事業対象生徒:			10	15	20	30
	本事業対象生徒以外:	50	50	70	140	150	180
目標設定の考え方:							
c	(成果目標)						単位:
	本事業対象生徒:						
	本事業対象生徒以外:						
目標設定の考え方:							

2. 地域人材を育成する高校としての活動指標（アウトプット）

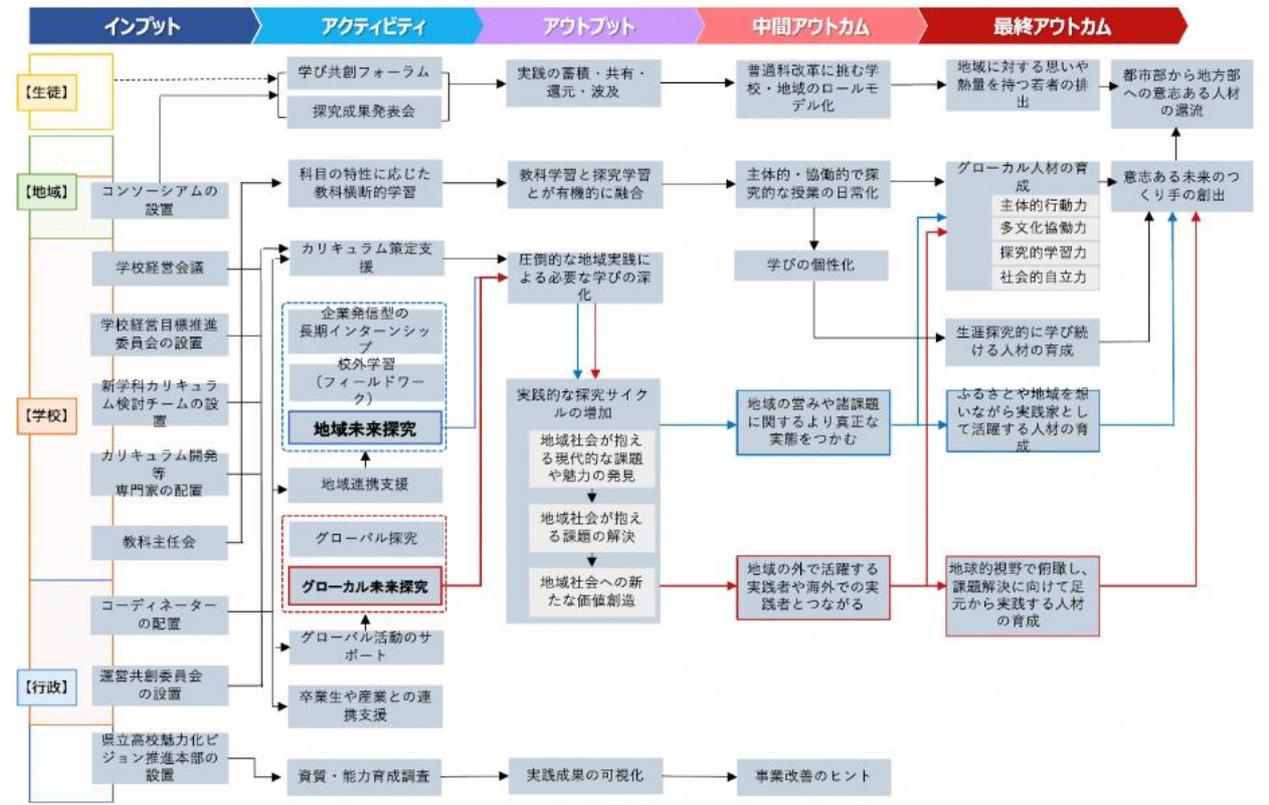
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	目標値(年度)
a	(地域課題研究又は発展的な実践の実施状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標) 主体性、協働性、探究性、社会性における「自己能力認識」で肯定的意見が75%以上						単位: %
		70	72	74	76	78	80
	目標設定の考え方:「高校魅力化評価システム」における現時点の数値から数値目標を設定						
b	(地域課題研究又は発展的な実践の実施状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標) 主体性、協働性、探究性、社会性における「行動実績」で肯定的意見が80%以上						単位: %
		75	75	78	80	83	85
	目標設定の考え方:「高校魅力化評価システム」における現時点の数値から数値目標を設定						
c	(地域課題研究又は発展的な実践の実施状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標) 安心・安全の土壌、多様性の土壌、対話の土壌、開かれた土壌における生徒の肯定的意見が90%以上						単位: %
		86	86	87	88	90	90
	目標設定の考え方:「高校魅力化評価システム」における現時点の数値から数値目標を設定						
d	(普及・促進に向けた取組の実施状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標) 学び共創フォーラムへの参加者数						単位: 人
		-	10	50	75	100	100
	目標設定の考え方: 全国に取組を広げる際に、率先垂範で地域や生徒の学びをつくることのできる人の数						

<調査の概要について>

1. 生徒を対象とした調査について

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
全校生徒数(人)	153	158	164	164	160
本事業対象生徒数			164	164	160
本事業対象外生徒数			0	0	0

(3) 普通科改革支援事業ロジックモデル



(4) 事業評価資料 令和6年度 高校魅力化評価システム結果

育定の区密割合を表示

学校 番号	学校 全体		1年全体		2年全体		3年全体		R52年度		普通科		地域共創科		R52年度	
	100目	200目	100目	200目	100目	200目	100目	200目	100目	200目	100目	200目	100目	200目	100目	200目
1	85.3	80.5	89.9	79.8	79.6	71.1	74.2	66.7	58.6	100.0	100.0	93.8	86.0	93.8	89.1	89.1
2	86.8	88.6	86.7	86.7	87.4	84.4	84.8	80.0	81.7	93.3	93.3	93.8	74.4	77.4	72.7	72.7
3	86.8	84.7	82.6	88.1	89.8	89.8	77.4	83.3	89.7	100.0	60.0	87.5	89.7	93.8	92.7	92.7
4	83.9	89.8	89.3	88.1	85.7	86.7	80.6	86.7	86.2	100.0	93.3	87.5	83.7	83.7	83.1	83.1
5	72.4	75.4	83.0	79.8	89.4	84.4	81.3	66.0	79.3	100.0	100.0	93.8	79.7	80.6	79.2	79.2
6	81.9	77.1	81.5	81.0	79.6	84.4	77.4	63.3	69.0	93.3	66.7	100.0	81.4	80.3	85.9	85.9
7	75.9	72.0	85.2	76.2	71.4	64.4	61.3	53.3	48.3	93.3	86.7	93.8	74.4	77.4	80.0	80.0
8	82.8	83.1	88.9	88.1	77.6	78.3	71.0	70.0	69.0	93.3	83.3	87.5	83.7	83.9	85.5	85.5
9	79.3	76.3	81.5	81.0	77.6	76.3	74.2	63.3	72.4	86.7	86.7	93.8	79.1	77.4	83.8	83.8
10	76.4	73.7	88.9	89.0	89.4	76.3	67.7	63.3	62.1	100.0	80.0	93.8	72.1	87.1	70.9	70.9
11	75.9	75.4	77.8	89.0	67.3	73.3	61.3	60.0	69.0	100.0	100.0	93.8	76.7	87.1	81.8	81.8
12	60.2	60.2	48.1	60.0	50.1	52.2	36.7	53.3	17.2	86.0	73.3	87.5	62.8	74.2	61.8	61.8
13	88.7	88.1	88.9	90.5	89.8	91.3	82.2	66.7	86.2	100.0	93.3	87.5	89.4	93.8	86.2	86.2
14	84.0	84.1	100.0	84.2	91.8	91.3	81.1	66.6	83.1	100.0	93.3	100.0	93.0	96.8	100.0	100.0
15	84.0	84.3	86.3	97.6	81.8	89.1	81.1	91.1	88.7	100.0	93.3	93.8	87.7	93.5	100.0	100.0
16	84.8	84.6	88.3	88.2	87.8	91.3	86.7	86.6	86.1	100.0	93.3	100.0	87.7	93.8	100.0	100.0
17	84.0	83.2	86.3	86.2	81.8	91.3	85.9	91.1	88.7	100.0	93.3	93.8	95.3	96.8	100.0	100.0
18	86.7	82.4	86.3	90.5	81.8	86.5	83.3	88.9	86.2	100.0	93.3	93.8	87.7	93.5	86.4	86.4
19	86.7	86.4	100.0	86.7	87.8	86.5	84.4	83.3	82.8	100.0	86.7	87.5	86.3	86.3	84.5	84.5
20	84.8	84.9	100.0	86.2	87.8	89.1	83.3	86.9	82.8	93.3	100.0	100.0	97.7	96.8	84.5	84.5
21	86.2	88.8	82.6	86.5	89.8	86.1	83.9	83.3	86.2	100.0	100.0	100.0	93.3	94.5	84.5	84.5
22	82.2	86.4	82.6	81.0	83.7	83.1	81.1	86.7	82.8	100.0	93.3	93.8	93.3	87.1	86.4	86.4
23	81.0	82.2	80.2	79.6	75.6	76.1	74.2	73.3	69.7	80.0	80.0	93.8	83.7	86.8	84.0	84.0
24	81.4	87.3	88.9	80.5	77.6	91.3	87.1	76.7	86.2	100.0	86.7	100.0	93.0	93.0	86.4	86.4
25	84.8	88.0	88.3	82.9	83.8	83.8	80.3	86.7	89.7	100.0	93.3	100.0	86.3	87.1	86.4	86.4
26	81.4	84.7	100.0	85.7	87.8	89.1	80.0	80.0	79.3	100.0	80.0	93.8	81.4	80.3	84.5	84.5

令和6年度 高校魅力化評価アンケート結果（学年・学科比較）

肯定的回答割合を示す

アンケート項目及び評価の質・能力	全体		1年全体		2年全体		3年全体		地域共育科		3年全体	
	100目	R52項目	100目	R52項目	100目	R52項目	100目	R52項目	100目	R52項目	100目	R52項目
能力の発揮	86.2	81.9	86.3	83.7	82.6	82.2	82.6	82.2	83.3	72.4	81.3	80.6
45. 情報系、発達したことが知っていることに関連して理解することが出来る	62.9	63.6	65.6	64.3	65.2	67.8	65.6	64.8	66.7	44.8	76.0	71.0
46. 発達したものを発展的に活用してみる	59.7	48.3	44.4	49.0	64.3	42.2	51.1	51.6	40.0	37.9	75.0	54.5
【社会的スキル】												
41. 専門知識を応用して考えられる経験	81.9	83.1	71.8	81.9	80.4	85.7	75.6	74.2	86.7	93.3	86.7	87.1
51. 一つ一つの知識を応用して考えられる経験												
48. 自分を表現して理解するよびである	80.2	81.4	80.2	79.5	76.1	80.0	76.6	71.0	83.3	72.4	81.3	80.8
部分自分で得意にして理解するよびである	78.3	81.4	74.1	76.5	84.8	80.0	66.7	80.5	73.3	62.1	75.0	76.7
日常生活において情報を自らとらえその活用や活用について考えた。	80.2	81.4	80.2	77.6	86.1	77.8	83.3	87.7	70.0	62.1	83.3	80.8
【社会性に関する自己認識】												
49. 得意な分野や得意な分野について、積極的に発表や説明が出来る	80.3	80.4	80.3	81.2	83.0	85.6	87.8	88.4	43.3	41.4	83.3	80.6
56. 基礎をよびますため、基礎における能力が低い	77.6	77.1	83.0	77.5	80.4	88.9	71.1	71.0	86.7	82.1	87.5	83.9
55. 得意な分野や得意な分野について、積極的に発表や説明が出来る	75.6	75.4	79.4	79.6	76.1	73.3	84.4	84.5	70.0	48.3	88.0	87.4
【社会参加意識】												
57. 自分が関わることで、考えられる社会参加が促されるかもしない	68.1	64.4	66.7	63.3	67.4	64.4	62.2	64.8	50.0	51.7	93.3	81.3
62. 地域や社会で役に立っている問題や課題がある	68.3	76.4	74.1	79.9	67.0	66.7	75.6	80.6	53.3	62.1	100.0	100.0
55. 目標達成を体験したら、意欲に何となく	78.4	83.9	74.1	77.6	78.1	84.4	80.0	87.7	76.7	75.9	93.3	87.1
【ローカル意識】												
59. 得意な分野や得意な分野について、積極的に発表や説明が出来る	80.6	83.1	80.2	77.6	87.0	82.2	73.3	80.6	76.7	68.5	100.0	87.1
64. 得意な分野や得意な分野について、積極的に発表や説明が出来る	84.5	87.3	88.2	86.7	87.0	85.7	88.7	83.9	83.3	79.3	93.3	85.6
63. 得意な分野や得意な分野について、積極的に発表や説明が出来る	41.4	44.1	37.0	40.8	45.7	40.0	24.4	35.5	40.0	33.8	66.7	48.4
【持続可能な開発目標】												
60. 得意な分野や得意な分野について、積極的に発表や説明が出来る	71.6	72.9	83.0	71.4	86.1	82.2	85.6	84.5	83.3	37.9	100.0	80.6
68. 自分自身の得意な分野や得意な分野について、積極的に発表や説明が出来る	73.3	81.4	77.8	73.2	73.9	80.0	62.2	67.7	76.7	86.2	86.7	80.8
【社会性に関する行動意識】												
71. 得意な分野や得意な分野について、積極的に発表や説明が出来る	76.9	78.0	74.1	81.6	76.1	82.2	88.9	71.0	80.0	82.8	86.7	85.5
74. 得意な分野や得意な分野について、積極的に発表や説明が出来る	74.1	73.7	74.1	69.4	89.6	73.3	62.2	68.1	86.7	51.7	93.3	77.4
72. 自分自身の得意な分野や得意な分野について、積極的に発表や説明が出来る	78.4	72.0	77.8	79.5	90.4	71.1	80.0	71.0	80.0	72.4	100.0	76.7
73. 得意な分野や得意な分野について、積極的に発表や説明が出来る	58.9	71.2	81.5	78.6	65.2	64.4	71.1	68.1	60.0	65.8	80.0	83.7
【社会性に関する行動意識】												
76. 得意な分野や得意な分野について、積極的に発表や説明が出来る	69.2	73.7	81.5	79.6	76.3	76.6	75.6	71.0	86.7	65.8	93.3	81.4
77. 得意な分野や得意な分野について、積極的に発表や説明が出来る	76.7	70.3	66.7	71.4	71.7	66.7	64.4	64.5	66.7	51.7	86.7	72.1

アンケート項目及び評価する質・能力	全体		1年全体		2年全体		3年全体		地域共創科		3年全体	
	100目	R52項目	100目	R52項目	100目	R52項目	100目	R52項目	100目	R52項目	100目	R52項目
	100目	200目	100目	200目	100目	200目	100目	200目	100目	200目	100目	200目
60.1 身近な人でも地域の事に参加した	78.3	88.5	80.0	88.2	78.1	81.1	86.7	80.0	86.2	86.7	86.1	80.6
70. 地域社会などでボランティア活動に参加した	62.9	82.4	63.3	73.4	54.3	33.3	55.5	36.7	34.5	60.0	67.4	58.1
77. 先生、保護者以外地域の大人と、話さない機会を交わした	52.8	80.5	65.7	80.9	73.9	73.3	76.6	70.0	69.0	83.3	86.4	83.9
多文化に関わるウェルビーイング												
81.1 今の生活全般の満足度	62.5	82.1	68.1	82.6	61.3	62.4	68.7	68.4	64.8	85.3	70.0	69.5
82. 普段のあなたの幸福度	68.0	84.4	81.0	87.6	69.7	65.1	60.0	62.0	67.2	76.0	71.3	68.1
83. 現在の日常生活に不安や心配事がない	58.0	84.9	60.3	84.4	52.2	51.3	48.9	30.0	41.4	80.0	33.3	51.2
緑豊かな環境に関わるウェルビーイング												
86. この学校に入ってから変わったと思う	88.8	93.5	94.6	95.3	90.4	86.7	93.9	83.3	82.8	96.7	95.3	86.8
84. 学校の一番好きなところ	88.5	99.0	91.3	100.0	82.6	80.0	91.1	80.5	86.2	96.7	93.3	86.8
85. 大切な人を幸せにしたい、楽しませたいと思う	83.6	86.4	77.9	82.6	82.6	84.4	69.9	77.4	68.6	93.3	86.7	80.8
多文化に関わるウェルビーイング												
86. 自分の将来について明確な夢を持っている	73.3	81.4	73.2	77.8	73.9	80.0	62.2	67.7	66.2	86.7	86.7	80.6
86. 自分の将来についての意識(将来に強い憧れや期待を持っている)	76.7	76.4	76.5	66.7	76.3	71.1	69.9	74.2	68.5	86.7	85.3	80.6
87. 自分の将来に向けて本気で頑張ろうと思っている	74.1	75.4	77.9	74.1	76.1	75.6	62.2	71.0	66.7	86.7	93.3	77.4
多文化に関わるウェルビーイング												
88. 将来、自分の住んでみたい地域の文化や暮らしに魅力を感じている	74.6	76.4	76.8	70.4	76.1	73.3	64.4	64.5	48.3	100.0	80.0	71.0
89. 住んでみたい地域の文化や暮らしの価値ある部分を、自分の手で未来に伝えていきたい	74.6	72.9	67.1	63.0	76.1	62.2	65.6	64.5	37.9	100.0	80.0	80.8
89. この地域を、得意分野で貢献したいと思う	64.6	80.5	81.2	85.2	80.4	73.3	75.6	74.2	60.0	69.0	93.3	83.0
89. 日本の将来は明るいと思う	58.0	85.6	65.7	65.6	45.7	42.2	44.4	41.9	36.7	34.5	53.3	51.2
学習その他												
90. この学校を卒業しおすすめる	88.8	88.6	87.9	96.3	84.6	80.0	82.2	77.4	73.3	82.8	100.0	86.4
76. 国際社会の課題解決に貢献したい	65.5	65.8	58.1	66.7	60.0	55.6	62.2	48.4	43.3	86.7	80.0	64.2
79. 来日中の思い出に残る行事やサークルを思い出してみたい	62.1	61.9	51.7	63.0	60.9	67.8	44.4	51.5	50.0	27.6	80.0	77.4
80. 来日中の経験に基づき専攻、就職する分野や留学先から課題解決にあたること	56.2	49.2	50.3	59.3	60.8	46.7	48.9	48.4	40.0	31.0	66.7	48.8

(7) 令和6年度 プロジェクトテーマ一覧

3年普通科	3年地域共創科
お金の教育ー2年間を通しての実践と気づきー	学校給食食べ残し
「みんな違って当たり前」をひろめる架け橋	リハビリ職からみた健康とは
私の2年間	住みやすい寮について
プロジェクト変換（グリーンツーリズム）	介護施設における入居者に対するITでのコミュニケーションサポート
2年間の活動振り返りと活動の引継ぎ	「海士町に住み続けたい」をサポートする保健
複業高校生	食べ物の好き嫌い
異質との共存と学校教育	地域医療×予防医療
自分とデジタル端末	排出される家庭ごみと私たちにできること
本を開く選択肢をもつには～”あじみ読書”をやってみよう～	個人の幸福と社会への還元
島前の森林資源の活用	強いメンタルを持ち、維持する方法
竹をより良い使い方地域で新たな産業に	島前地区のレスリングの発展のために
美しい島であり続けるための環境教育	農業について
アップサイクルについて	「海士町のふるさと納税」
地域のお年寄りと楽しい時間を作る	テラフォーミングの実現性
未利用魚の再利用	木工工作の魅力発信
本気米プロジェクト	日干しレンガ
「ジェノベーゼソースを隠岐のお土産に」	試合の経験値の差を無くすための方法
EIES・あまてらすプロジェクト	地域活動推進サービスの開発
「みんな違って当たり前」をひろめる架け橋	弓道についての探究
隠岐島前の星の可能性	朝ご飯で最低限とるべきもの
2年間の活動振り返りと活動の引継ぎ	隠岐の獣医医療
	レスリングの魅力
	心理テストの信憑性
	学校寮のホームページ作成
	どの地域でも普遍的に利益となる政策とは？
	島前地区における文化の伝承
	ラジオを通じた島前校の魅力発信
	K-POPが日本で人気がある理由
	海士町におけるサイクルツーリズム
	これからの教育について

島根県立隠岐島前高等学校 教育課程編成計画表（令和6年度入学生）

課程	学科
全日制	普通科

教科	科目	標準単位数	1年 学科共通	2年		3年		単位数 の合計	備考
				文系	理系	文系	理系		
国語	現代の国語	2	2					2	
	言語文化	2	2					2	
	論理国語	4		2	2	2	2	4	
	文学国語	4		A 2		F 2		0~4	
	国語表現	4				D 3		0~3	
	古典探究	4		2	2	2	2	4	
地理歴史	地理総合	2		2	2			2	
	地理探究	3				C 4	C 4	0~4	
	歴史総合	2		2	2			2	
	日本史探究	3				C 4	C 4	0~4	
	世界史探究	3				C 4	C 4	0~4	
公民	公民共	2	2					2	
	政治・経済	2				H 3		0~3	
数学	数学Ⅰ	3	3					3	
	数学Ⅱ	4		4	4			4	
	数学Ⅲ	3						3	0~3
	数学A	2	2					2	
	数学B	2		2	2			2	
	数学C	2				E 2	2	0~2	
	数学探究A	学校設定科目					D 3	3	0~3
理科	物理基礎	2	2					2	
	物理	4			2		4	0~6	
	化学基礎	2	2					2	
	化学	4			2		3	0~5	
	生物基礎	2	2					2	
	生物	4			2		4	0~6	
理科探究	学校設定科目			B 2		G 2	2	0~4	
保健体育	体育	7~8	2	2	2	3	3	7	
	保健	2	1	1	1			2	
芸術	音楽Ⅰ	2	2					0~2	
	美術Ⅰ	2	2					0~2	
	書道Ⅰ	2	2					0~2	
外国語	英語コミュニケーションⅠ	3	3					3	
	英語コミュニケーションⅡ	4		4	4			4	
	英語コミュニケーションⅢ	4				4	4	4	
	論理・表現Ⅰ	2	2					2	
	論理・表現Ⅱ	2		2	2			2	
	論理・表現Ⅲ	2				2	2	2	
家庭情報	家庭基礎	2	2					2	
情報	情報Ⅰ	2		2	2			2	
	情報Ⅱ	2				C 2		0~2	
共通教科・科目単位数計			29	25~29	29	18~29	29	72~87	
商業	ビジネス基礎	2~4		A 2				0~2	
	課題研究	2~6				F 2		0~2	
	情報処理	2~6		B 2				0~2	
	ビジネス・コミュニケーション	2~4				G 2		0~2	
家庭	保育基礎	2~6				G 2		0~2	
	生活と福祉	2~4		B 2				0~2	
	フードデザイン	2~6		A 2				0~2	
	食文化	1~2				F 2		0~2	
体育	スポーツ探究	学校設定科目				E 2		0~2	
地域創造	生活ビジネス教養	学校設定科目				H 3		0~3	
	地域地球学	学校設定科目				C 2		0~2	
専門教科・科目単位数計			0	0~4	0	0~11	0	0~15	
総合的な探究の時間			3~6	1	1	1	1	3	
自立活動			0~21	0~1	0~1	0~1	0~1	0~3	
ホームルーム活動週あたり時数			1	1	1	1	1	3	
単位数及び週あたり時数の合計			31~32	31~32	31~32	31~32	31~32	93~96	
学校設定科目単位数計			0	0~2	0	0~12	0~3	0~12	

・Ⅱのつく科目は同じ科目のⅠの履修後に、Ⅲのつく科目は同じ科目のⅡの履修後に履修すること。
 ・理科の選択科目は、2~3年次の継続履修すること。
 ・A、Bからそれぞれ1科目選択すること。ただし、「文学国語」と「理科探究」、「ビジネス基礎」と「情報処理」、「フードデザイン」と「生活と福祉」のうちいずれかの組み合わせで選択すること。
 ・Cは「地理探究」「日本史探究」「世界史探究」のうちから1科目又は「情報Ⅱ」と「地域地球学」の2科目選択すること。
 ・D、E、Hからそれぞれ1科目選択すること。
 ・F、Gからそれぞれ1科目選択すること。ただし、2年次のA・B選択で「文学国語」と「理科探究」を履修した者は、3年次に「文学国語」と「理科探究」を、2年次に「ビジネス基礎」と「情報処理」を履修した者は、3年次に「課題研究」と「ビジネス・コミュニケーション」を、2年次に「フードデザイン」と「生活と福祉」を履修した者は、3年次に「食文化」と「保育基礎」を選択し、履修すること。

島根県立隠岐島前高等学校 教育課程編成計画表（令和6年度入学生）

課程	学科
全日制	地域共創科

教科	科目	標準単位数	1年 学科共通	2年	3年	単位数 の合計	備考
国語	現代の国語	2	2			2	
	言語文化	2	2			2	
	論理国語	4		2	2	4	
	国語表現	4			D 3	0~3	
	古典探究	4		2	2	4	
地理歴史	地理総合	2		2		2	
	地理探究	3			C 4	0~4	
	歴史総合	2		2		2	
	日本史探究	3			C 4	0~4	
公民	世界史探究	3			C 4	0~4	
	公民共	2	2			2	
	政治・経済	2			H 3	0~3	
数学	数学Ⅰ	3	3			3	
	数学Ⅱ	4		4		4	
	数学A	2	2			2	
	数学探究A	学校設定科目			D 3	0~3	
理科	物理基礎	2	2			2	
	化学基礎	2	2			2	
	生物基礎	2	2			2	
保健体育	体育	7~8	2	2	3	7	
	保健	2	1	1		2	
芸術	音楽Ⅰ	2	2			0~2	
	美術Ⅰ	2	2			0~2	
	書道Ⅰ	2	2			0~2	
外国語	英語コミュニケーションⅠ	3	3			3	
	英語コミュニケーションⅡ	4		4		4	
	英語コミュニケーションⅢ	4			4	4	
	論理・表現Ⅰ	2	2			2	
	論理・表現Ⅱ	2		2		2	
	論理・表現Ⅲ	2			2	2	
家庭情報	家庭基礎	2	2			2	
情報	情報Ⅰ	2		2		2	
	情報Ⅱ	2			C 2	0~2	
共通教科・科目単位数計			29	23	18~23	70~75	
地域創造	生活ビジネス教養	学校設定科目			H 3	0~3	
	地域地球学	学校設定科目			C 2	0~2	
地域未来共創	地域未来共創	学校設定科目		6		6	
	グローバル未来共創	学校設定科目			6	6	
専門教科・科目単位数計			0	6	6~11	12~17	
総合的な探究の時間		3~6	1	1	1	3	
自立活動		0~21	0~1	0~1	0~1	0~3	
ホームルーム活動週あたり時数			1	1	1	3	
単位数及び週あたり時数の合計			31~32	31~32	31~32	93~96	
学校設定科目単位数計			0	6	6~14	12~20	

・Ⅱのつく科目は同じ科目のⅠの履修後に、Ⅲのつく科目は同じ科目のⅡの履修後に履修すること。
 ・Cは「地理探究」「日本史探究」「世界史探究」のうちから1科目又は「情報Ⅱ」と「地域地球学」の2科目選択すること。
 ・D、Hからそれぞれ1科目選択すること。